

令和7年度第2回松阪地域高等学校活性化推進協議会

配付資料

- 令和7年度 松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿 … P 1
- 【資料 1】 令和7年度第1回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要 … P 2
- 【資料 2】 松阪地域の県立高等学校(全日制)の入学者選抜の状況 … P 4
- 【資料 3】 学校施設の老朽化の状況 … P 5
- 【資料 4】 令和4～7年度の協議(主な意見) … P 6

～～～再掲資料(令和7年度第1回松阪地域高等学校活性化協議会 配布資料)～～～

- 【再掲資料 1】 松阪地域の中学校卒業生進路先の推移 … P 13
- 【再掲資料 2】 松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について … P 14
- 【再掲資料 3】 令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議のまとめ
～今後の学びと配置のあり方について～ … P 21
- 【再掲資料 4】 次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて … P 25
- 【再掲資料 5】 松阪地域 中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減) … P 26
- 【再掲資料 6】 松阪地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移と予測 … P 27
- 【再掲資料 7】 松阪地域および伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて(令和8年度) … P 28
- 【再掲資料 8】 松阪地域の全日制高校の学びの配置状況(令和8年度) … P 29
- 【再掲資料 9】 松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和7年3月卒) … P 30
- 【再掲資料 10】 県立高等学校(全日制)への通学時間の目安 … P 31
- 【再掲資料 11】 松阪地域の県立高等学校(全日制)への交通手段等 … P 32
- 【再掲資料 12】 学校規模と教育環境について … P 34
- 【再掲資料 13】 令和22年度までの松阪地域の県立高等学校(全日制)の総学級数について … P 36

令和7年度 松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No		所属及び名前
1	学識経験者	三重大学 地域イノベーション学研究科 准教授 水木 千春
2	地域有識者	松阪商工会議所 事務局次長 井村 彰
3		多気町商工会 事務局長 高橋 勝利
4		大台町商工会 事務局長 上岡 万紀子
5	市町教育委員会教育長	松阪市教育委員会 教育長 中田 雅喜
6		多気町教育委員会 教育長 小林 真一
7		明和町教育委員会 教育長 下村 良次
8		大台町教育委員会 教育長 福岡 佳久
9	県立高等学校長代表	県立松阪高等学校 校長 井ノ口 誠充
10	小中学校長代表	松阪市立殿町中学校 校長 尾崎 充
11	小中学校PTA代表	松阪市PTA連合会 代表 川端 賢一
12		多気郡PTA連合会 代表 積木 利昌
13	高等学校PTA代表	松阪地区高等学校PTA連合会 代表 清水 竜也
14	小中学校教職員代表	松阪市立東部中学校 教諭 山際 健太郎
15	高等学校教職員代表	県立相可高等学校 教諭 富安 道伸

令和 7 年度第 1 回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要

1 日時 令和 7 年 9 月 3 0 日（火曜日） 1 8 時 3 0 分から 2 0 時 3 0 分まで

2 場所 三重県松阪庁舎 大会議室

3 概要

松阪地域の県立高校の総学級数が、現在の 1 学年 2 5 学級から、1 5 年先には 1 0 ～ 1 3 学級程度となることが見込まれる中、「令和 4 ～ 6 年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ」をふまえ、令和 1 0 ～ 1 1 年度に想定される、合わせて 5 学級程度の学級減への対応の方向性について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

(学校規模について)

- 普通科高校や専門高校など選択肢があっても、小規模校では教員数が少ないことにより学びに制約が生じるのであれば、一定の規模がある高校に普通科と専門学科の両方を設置し、多様な学びができる環境をつくることも考えられるのではないかと。また、一定の規模があれば、子どもたちが重視する部活動のニーズに応えることもできる。(川端委員)
- アンケートで多くの生徒や保護者が高校を選ぶうえで重視することとして回答した「学びたい学科やコースがある」ことを実現するためには、教員数を確保する観点からも、ある程度の学校規模がないと難しい。つらい選択になるが、通学時間も考慮しつつ、学科の枠を超えて学びを集約しながら、子どもたちの希望に応じていく必要がある。(井村委員)
- 教員数の確保に課題があるものの、1 学級の定員を減らし、学級数を確保することで、生徒や保護者の多様なニーズに応えることができるのではないかと。そのためにも引き続き、県から国に対して学級編制基準の引き下げの要望を続けるなど、県と国が連携していくことが大切である。(山際委員)
- 松阪市の中学校卒業者の一定数が市外へ進学している現状があり、当地域の高校の魅力を高める必要がある。学校規模だけでなく、抜本的に松阪地域の学びをどうしていくのかの議論を進めたい。(中田委員)
- 県立普通科に関しては、当地域の高校は 2 校だが、今後私立高校への進学者が増えることが懸念される。(尾崎委員)
- 専門性の高い教員を配置するには、大学進学へのニーズに応える普通科系の高校は 6 学級以上、専門高校においても 4 ～ 5 学級は必要と感じる。中学校における部活動の地域展開や、3 5 人学級の導入が高校においても進められるのかも注視しながら、昇学園高校を含む松阪地域の高校全体のあり方を検討する必要がある。(小林委員)
- 各市町において小中学校の統合が進んでいるのは少子化の影響だけではなく、津波対策や校舎の老朽化も背景となっている。県立高校についても、伊勢志摩地域との再

編も見据え、校舎の老朽化の状況と今後の建て直しの見通しを示してもらえると、議論が進みやすいのではないか。(下村委員)

- かつて勤務した小規模校では、1学年3学級から2学級へと減少する中で、生徒が充実した高校生活を送り、希望する進路が実現できるよう努力を重ねたが、教員数が減ることで学校運営が厳しくなり、現在は1学級となっている。こうした状況が訪れる前に、早期に方向性を打ち出していくことも必要ではないか。(井ノ口委員)

(学びのあり方について)

- 既存の学科にとらわれず、普通科で工業や商業について学べたり、機械科に在籍しながら経営について学べたりするような多様性のある学びができる高校があってもよいのではないか。また、授業料無償化が進み高校教育がほぼ義務教育化していく中で、子どもたちが希望する高校で学べるよう、入学者選抜のあり方も検討しつつ、学びの多様化学校のような高校を新たに作っていく必要があるのではないか。(中田委員)
- 昴学園高校は、地域の方や小中学生と双方の活性化をめざしてともに学びあい、交流を進めており、同校の存続を願うものの、今後の生徒減を考えると簡単ではないことも理解している。各高校の活性化に向けた取り組み状況を共有しながら、15年先を見据えつつ、ある程度イメージが可能なスパンで考えていくことも必要ではないか。(福岡委員)
- 増加傾向にある不登校生徒や外国籍の生徒は、私立の通信制高校に進学することが多くなっているが、高校卒業後の進路選択に必要な力の育成に関しては、気がかりな部分がある。国籍の多様化や年度途中での転入も課題となる中、県立高校においても外国籍の生徒の学びの場について検討してもらいたい。(尾崎委員)
- 地元就職や定住につながる観点から、例えば週に3日は学校で学び、残りの2日は地元企業で実習するような学科があってもよいのではないか。(清水委員)
- 少人数だからこそ輝く子どもたちは、普遍的に在るのではないか。高校に送り出す側として、そうした高校がこの地域にあってほしい。(山際委員)
- 高校現場では、将来の学校の存続について不安を抱えつつも、子どもたちに精一杯の学びを提供しようと努力している。今後生徒数が減少したとしても、そのときの子どもたちにとってよりよい学びを実現するという思いを持ち続けたい。(富安委員)
- 総合専門高校や、全日制と定時制、通信制の3つの課程を行き来できる愛知県のフレキシブルハイスクールなど、他地域や他府県の先進事例を参考にして検討を進めてはどうか。(井ノ口委員)
- 小学生の保護者は高校のことには関心を持ちにくいのが、高校再編が最も影響を及ぼす年代となることが考えられる。こうした世代の保護者に対する情報提供や、高校のあり方について一緒に考える機会を増やしていくことが大切ではないか。(川端委員)

松阪地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況

資料 2

(1) 令和8年3月卒・現中3

学校名	学科・コース	入学定員	R7.12時点の進学者希望者数		前期選抜等				後期選抜				追検査・再募集	
			定員との差	募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集定員	日程			日程		
松阪	普通	200	124	▲76	-	-	-	-	200	後期選抜出願書類受付 2月24日～26日	後期選抜追検査 ・再募集検査 3月23日	合格者の発表 3月25日		
	理数	80	184	104	40	187	4.68	41	39					
	学校計	280	308	28	40	187	4.68	41	239					
松阪工業	機械	40	47	7	20	44	2.20	22	18					
	電気工学	40	52	12	20	51	2.55	22	18					
	工業化学	40	43	3	20	41	2.05	22	18					
	繊維デザイン	40	56	16	40	56	1.40	40	-					
	自動車	40	47	7	20	47	2.35	22	18					
	学校計	200	245	45	120	239	1.99	128	72					
松阪商業	総合ビジネス科	120	128	8	60	129	2.15	66	54					
	国際ビジネス科	40	46	6	20	41	2.05	22	18					
	学校計	160	174	14	80	170	2.13	88	72					
飯南	総合学科	80	63	▲17	40	46	1.15	58	22					
	学校計	80	63	▲17	40	62	1.15	58	22					
相可	普通	80	67	▲13	24	65	2.71	27	53					
	生産経済	40	41	1	20	40	2.00	22	18					
	環境創造	40	39	▲1	20	38	1.90	22	18					
	食物調理	40	49	9	40	48	1.20	40	-					
	学校計	200	196	▲4	104	191	1.84	111	89					
昴学園	総合学科	80	34	▲46	80	56	0.70	56	-					
	学校計	80	34	▲46	80	56	0.70	56	-					
松阪地域（全日制）計		1,000	1,020	20	464	889	1.92	482	494					

※「R7.12時点の進学者希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

(2) 令和7年3月卒・現高1

学校名	学科・コース	入学定員	R6.12時点の進学者希望者数		前期選抜等				後期選抜				再募集			入学者数	欠員
			定員との差	募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
松阪	普通	200	163	▲37	-	-	-	-	200	157	0.79	200	-	-	-	200	0
	理数	80	186	106	40	189	4.73	40	40	125	3.13	40	-	-	-	80	0
	学校計	280	349	69	40	189	4.73	40	240	282	1.18	240	-	-	-	280	0
松阪工業	機械	40	48	8	20	47	2.35	22	18	24	1.33	18	-	-	-	40	0
	電気工学	40	32	▲8	20	29	1.45	22	18	12	0.67	18	-	-	-	40	0
	工業化学	40	34	▲6	20	40	2.00	22	18	18	1.00	18	-	-	-	40	0
	繊維デザイン	40	56	16	40	54	1.35	40	-	-	-	-	-	-	40	0	
	自動車	40	66	26	20	61	3.05	22	18	20	1.11	18	-	-	-	40	0
	学校計	200	236	36	120	231	1.93	128	72	74	1.03	72	-	-	-	200	0
松阪商業	総合ビジネス科	120	115	▲5	60	116	1.93	66	54	58	1.07	54	-	-	-	120	0
	国際ビジネス科	40	32	▲8	20	34	1.70	22	18	18	1.00	18	-	-	-	40	0
	学校計	160	147	▲13	80	150	1.88	88	72	76	1.06	72	-	-	-	160	0
飯南	総合学科	80	72	▲8	40	60	1.50	59	21	24	1.14	21	-	-	-	80	0
	学校計	80	72	▲8	40	75	1.50	59	21	24	1.14	21	-	-	-	80	0
相可	普通	80	102	22	24	92	3.83	27	53	64	1.21	53	-	-	-	80	0
	生産経済	40	46	6	20	43	2.15	22	18	23	1.28	18	-	-	-	40	0
	環境創造	40	57	17	20	53	2.65	22	18	22	1.22	18	-	-	-	40	0
	食物調理	40	41	1	40	39	0.98	39	-	-	-	-	1	2	1	40	0
	学校計	200	246	46	104	227	2.18	110	89	109	1.22	89	1	2	1	200	0
昴学園	総合学科	80	29	▲51	80	75	0.94	75	-	-	-	-	5	0	0	75	▲5
	学校計	80	29	▲51	80	75	0.94	75	-	-	-	-	5	0	0	75	▲5
松阪地域（全日制）計		1,000	1,079	79	464	932	2.01	500	494	565	1.14	494	6	2	1	995	▲5

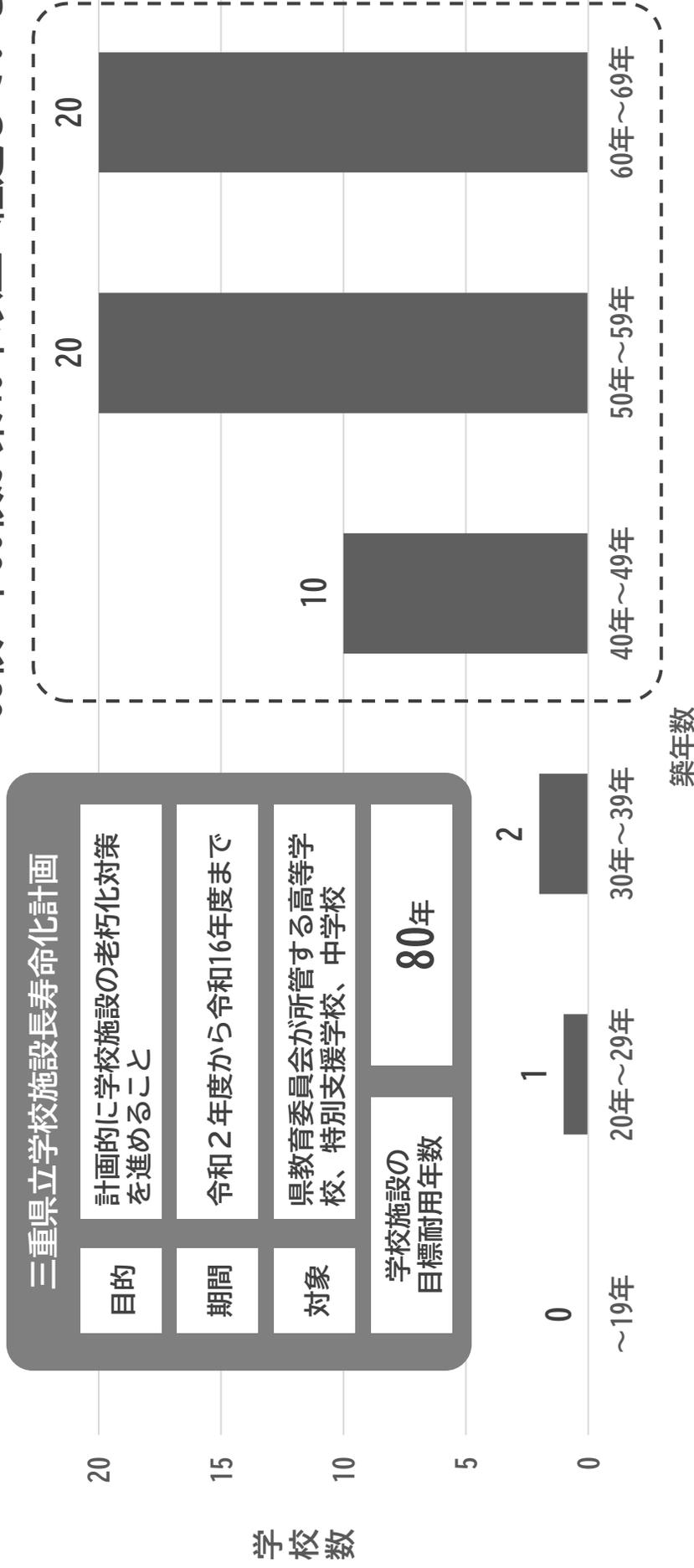
※入学者数と合格者の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため

※「R6.12時点の進学者希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

学校施設

学校施設の老朽化の状況

53校*1中50校が築40年以上*2経過している



三重県立学校施設長寿命化計画	
目的	計画的に学校施設の老朽化対策を進めること
期間	令和2年度から令和16年度まで
対象	県教育委員会が所管する高等学校、特別支援学校、中学校
学校施設の目標耐用年数	80年

【備考】

- * 1 熊野青藍高等学校については、木本高等学校及び紀南高等学校と同一の校舎であるため、学校数に含めていない。
- * 2 各県立高等学校（全日制）の主たる校舎の築年数（令和7年4月1日時点）

令和4～7年度の協議(主な意見)

1 これまでの主な意見

(○:R4① ◇:R5① ◎:R5② ▽:R6① ☆:R6② □:R6③ ●:R7①)

(1) 子どもたちに育みたい資質・能力

- 地域の小中高が連携することに加え、家庭・地域が一緒になって教育活動に取り組むことが、将来の松阪地域を担う子どもたちの育成につながっていく。
- 生徒が減少していく中であっても、この地域で学び就職する人が増えるよう、高校での学びの選択肢をできるかぎり多く維持するとともに、より実践的なキャリア教育に取り組んでもらいたい。
- 県外からの入学生が増加している昴学園高校の事例から考えると、県外から三重に来てもらい、三重で活躍できる人材を育てるという考え方もあるのではないか。
- ◇ 生成AI技術の進歩など、急速に社会が変化する中で、複雑で予測が困難な時代に対応できる人材をいかに育てていくかが課題となる。生徒が興味・関心のある分野を深く学び、得意分野をさらに伸ばせるようにしたい。
- ◇ 先が見えないコロナ禍を過ごした子どもたちだからこそ、自ら課題を見つけて向かっていくという「未来を切り拓く力」が大切である。
- ◇ コミュニケーション能力や課題解決能力に加え、答えを見つけるだけではなく、問いを立てる能力や、あきらめずに困難に立ち向かう力も必要である。
- ◇ 多様性の時代には、一つの問題に対してさまざまな考え方ができるよう、多面的な学びが重要となる。また、未来を切り拓く力を育むためには、多様な学びの選択肢の中から、主体的に選択できるようにすることも大切である。
- ◇ 子どもたちの視点を大切にして、子どもたち一人ひとりが自分のよさを伸ばすことができる環境をつくるのが大切である。
- ◇ 将来の進路や興味・関心より、偏差値で高校を選択する傾向も見られる。高校進学に向けた小中学校でのキャリア教育が大切である。
- ◇ 指示がないと意欲的に仕事ができない若手職員が年々増えている。このことから学生時代に子どもの自主性を伸ばしていくことが重要であると感じる。
- ◇ 不登校を経験した生徒の受け皿に加え、入学後に不登校にならないようなケアも大切である。
- ◎ 他地域の高校や県外の大学へ進学したとしても、将来この地域を愛し、この地域に戻ってきたと思ってもらえるよう、小中高をとおり地域に根差した学びを大切にしたい。
- ◎ 求人を出してもなかなか応募がないという現状があり、地域における人材育成の視点に加え、労働条件を含めた魅力ある職場づくりも必要であると感じている。
- ◎ 中学生に、なぜ大学へ進学するのかを考えさせたり、地元の高校から地域の企業に就職することのよさを伝えたりしていく必要がある。小中高が連携して、こうした人生設計につながるキャリア教育に取り組むことが大切である。
- ▽ 松阪市では今年度より全ての小中学校でコミュニティ・スクールを導入し、地域に根差した学校をめざしている。その中で地域を大切にする心や地域を愛する心を育てたい。
- ▽ 自分の子どもには漠然と大学へ進学してほしいと考えているが、最終的には地元に住んでほしいので、地域への愛着心を育むための学びの必要性については、保護者として大変共感できる。
- ☆ 「将来就きたい仕事」で、多種多様な職業を志している結果をふまえると、中学生が将来を見据えた高校や学科の選択ができるよう、学力だけでなく、キャリア教育をさらに充実させることが必要である。こうしたことをふまえて、今後の高校の学びと配置のあり方についての議論につなげていく必要があると感じた。

- 将来の松阪地域を担う子どもたちの育成が大切
- ◇興味・関心のある分野を深く学び、得意分野をさらに伸ばすことが必要
- ◇夢や希望をかなえるため、自らの可能性を發揮し、あらゆる場面であきらめずにチャレンジする「未来を切り拓く力」が必要
- ◇コミュニケーション能力や課題解決能力
- ◇問いを立てる能力や、あきらめずに困難に立ち向かう力
- ◇多様な学びの選択肢の中から、主体的に選択する力
- ◇高校進学に向けた、小中学校でのキャリア教育
- ◇学生時代における子どもの自主性
- ◎地域への愛着心を育むために、地域に根差した学びが必要
- ▽地域を大切に作る心や地域を愛する心

(2) 松阪地域の中学生の進路状況について

- ◎ 松阪地域には多様な学科がバランスよく配置されているにもかかわらず、中学校卒業生の約3分の1が他地域の全日制高校へ進学している。その要因を分析し、各高校・学科の魅力を高め、それを発信することができれば、地元の高校へ進学する生徒の割合も増えるのではないかと懸念している。
- ◎ 学校以外の習い事でできた友人と同じ学校に行きたいという理由で、他地域の高校へ進学する生徒も一定数いるようだ。保護者としても、子どもが希望するなら高校段階では地域を越えて交流させてやりたいという思いがあるのではないかと懸念している。
- ◎ 松阪地域の高校卒業生の約6割が大学、短大、専門学校等へ進学していることや、自分が純粋に行きたい高校を記入していると思われる中学校3年生の7月段階の進路希望状況を勘案すると、松阪地域では普通科の定員が不足しており、その結果として私立高校や他地域の高校へ進学しているのではないかと懸念している。
- ▽ 人手不足が叫ばれる中、高校にも毎年たくさんの求人がある。これまで以上に地域の企業と密に連絡を取り合い、マッチングを進めていかないと、地域へ生徒を送り出せなくなってしまうのではないかと懸念している。

- ◎各高校・多様な学科の特色化・魅力化の向上とその情報発信により、地元高校への進学割合を高める
- ◎地域の中学生のニーズや現状を分析し、配置のあり方を検討する
- ▽地域の企業との連携

(3) 再編を検討するうえで大切にしたいこと

- 地域と連携した学びやICTを活用した学習などを取り入れながら、学校の活性化や魅力ある学校づくりにつなげてもらいたい。
- 地域の少子化や教育的ニーズの多様化が進む中、小学校から高校までの一貫した学びで子どもたちを育むことを意識しながら、松阪地域全体を見通したこれからの高校の学びと配置のあり方を協議していくことが大切である。
- 15年前と比べ、生徒数は減っているものの、不登校傾向にある生徒や発達に課題がある生徒、外国につながりを持つ生徒の割合が増えてきており、15年先を見据え、高校において求められる学びを検討する際には、これらの課題に柔軟に対応していくことが大切である。
- 松阪地域は、多様な学科や特色ある学びを持つ県立高校に加え、魅力ある私立高校があるなど、高校選択に関して恵まれた環境にある。地域の生徒が地域の高校へ進学するためには、多様な学科の維持や高校の魅力化が必要である。
- 高校魅力化の重要な要素でもある部活動の活性化という視点から考えると、高校には一定規模が必要である。

- ◇ 松阪地域は、私立高校や通信制課程を含め、普通科、専門学科、総合学科がバランスよく配置されている。今後、高校の配置を検討するにあたっては、近隣地域との流入・流出状況もふまえ、学びの選択肢が保たれるよう総合的に考えていきたい。
- ◇ 学級規模に関わらず、どの高校でも学校の特色に応じたきめ細かな教育が行われているが、生徒の社会性を育むには、経験上一定の学級規模があったほうが望ましいと感じる。
- ◇ 学級規模が小さくなれば教員数が減り、多様な選択科目や部活動の維持が難しくなる。高校の学びや配置のあり方を考える上では、スケールメリットも重要な要素である。
- ◎ 多様な選択肢があったとしても、現実的な合格可能性、交通の利便性や通学費用などを考えて、隣接地域の高校を選択する生徒も多い。
- ◎ 大学等に進学するなら普通科でなければというのではなく、専門学科から大学等へ進学する生徒も多いことを、中学生にしっかりと周知していく必要がある。
- ◎ 目標に向かって粘り強く取り組む力や、他者と協働する力などの非認知能力を育成することが大切になっており、そういった学びの実現には一定の学校規模があるほうが望ましい。
- ◎ 一般に小規模校に存在するとされているメリットは、「体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる」といったものを除いて、概ね大規模校にも存在している。一方で、学級減による教員数の減少は、教科指導や部活動など学校運営全体に大きな影響を与えることとなる。
- ◎ 専門学科の学びの選択肢を維持するために、近年は主に普通科の定員を減じてきたが、これ以上松阪地域の県立高校の普通科の定員を減らすべきではない。普通科と専門学科・総合学科のバランス、公立と私立のバランスをしっかりとりながら、慎重に議論を進めてもらいたい。
- ◎ いつ頃までに、当協議会としての方向性をとりまとめる必要があるのか。
⇒ (事務局) 松阪地域では、令和11年度に大きな中学校卒業生数の減少が見込まれているので、統合を含めた再編を検討するのであれば、中学生の進路選択への影響等を勘案すると、遅くともその3年前の令和8年度までに方向性をとりまとめる必要がある。
- ▽ 高い教育効果を得るためには、一定の学校規模を維持することが必要である。また、地域の子どもを地域で育てるためには、現在のバランスのよい学びの配置を維持することも必要である。
- ▽ 学級数の減少が見込まれる中、現在の全ての専門学科を残すことは不可能である。今後、学級数を減じながらも学びの選択肢は減らさないような対応を、具体的に検討する必要がある。
- ▽ 地域に子どもたちのニーズにあった多様な学びの選択肢を残すことで、当地域の高校への進学率が高まるのではないか。
- ☆ アンケート結果から、子どもたちは高校選びで部活動を重視しており、そのニーズをかなえるためには、一定の学校規模があったほうがよい。
- ☆ 学校規模については、より丁寧な議論が必要であるが、多様な教育課程の編成や、それを可能とする教員数を確保する観点から、学校によっては8学級や6学級を下回らないといったことを明記したほうがよいのではないか。
- ☆ 多様な選択科目の開設には、相当数の教員が必要であるとともに、学校行事や部活動などの充実のためにも、一定の学校規模があったほうがよい。
- ☆ 総学級数の減少が見込まれる中、1校あたりの学級数を確保しようとする、現在ある学校数の維持は難しくなる。「一定の統合は避けられない」という声も多くあることから、学級数と学校数のバランスに留意して、検討を進める必要がある。
- ☆ 増加している不登校の子どもたちの進路も考えて、当地域の高校の配置のあり方を考えていきたい。不登校に特化して子どもたちの学びを支える小規模校が、当地域にあってもよいのではないか。
- ☆ 専門学科の学びの選択肢の維持については、農業・工業・商業などの枠にとらわれず、学科を越えた連携も視野に入れながら、学びの集約化に関する議論を進めたい。

- ☆ 統合についての検討にあたっては、「統合は避けるべき」と「一定の統合は避けられない」を選択したどちらの保護者にも共通する「子どもたちの学びの選択肢や特色のある学びの維持」を望む意見を大切にすることが必要である。
- 中学校において部活動の地域移行の議論や取組が進む中、高校における部活動の維持・活性化がどのように進んでいくのかをふまえ、議論する必要があるのではないか。
- 小中学校において35人学級の実現が進んでいることから、中学校卒業生数の減少に対して、学級減で対応する前に、1学級40人となっている定員を減らすことで対応することを検討してはどうか。
- 小規模校から大学へ進学し、社会で活躍している卒業生も多い。子どもたちの思いや願いをふまえた学びが充実し、それがキャリアにもつながる学びの選択肢が、この地域にはあるということ念頭に、さらに協議を進めていきたい。
- 15年先を見据えた方向性を取りまとめるためには、校舎の老朽化も念頭に置く必要があるのではないか。次年度以降に、関係する資料を提示していただきたい。
- 普通科高校や専門高校など選択肢があっても、小規模校では教員数が少ないことにより学びに制約が生じるのであれば、一定の規模がある高校に普通科と専門学科の両方を設置し、多様な学びができる環境をつくることも考えられるのではないか。また、一定の規模があれば、子どもたちが重視する部活動のニーズに応えることもできる。
- アンケートで多くの生徒や保護者が高校を選ぶうえで重視することとして回答した「学びたい学科やコースがある」ことを実現するためには、教員数を確保する観点からも、ある程度の学校規模がないと難しい。つらい選択になるが、通学時間も考慮しつつ、学科の枠を超えて学びを集約しながら、子どもたちの希望に応えていく必要がある。
- 松阪市の中学校卒業生の一定数が市外へ進学している現状があり、当地域の高校の魅力を高める必要がある。学校規模だけでなく、抜本的に松阪地域の学びをどうしていくのかの議論を進めたい。
- 専門性の高い教員を配置するには、大学進学へのニーズに応える普通科系の高校は6学級以上、専門高校においても4～5学級は必要と感じる。中学校における部活動の地域展開や、35人学級の導入が高校においても進められるのかも注視しながら、昴学園高校を含む松阪地域の高校全体のあり方を検討する必要がある。
- 各市町において小中学校の統合が進んでいるのは少子化の影響だけではなく、津波対策や校舎の老朽化も背景となっている。県立高校についても、伊勢志摩地域との再編も見据え、校舎の老朽化の状況と今後の建て直しの見通しを示してもらえると、議論が進みやすいのではないか。
- 既存の学科にとらわれず、普通科で工業や商業について学べたり、機械科に在籍しながら経営について学べたりするような多様性のある学びができる高校があってもよいのではないか。また、授業料無償化が進み高校教育がほぼ義務教育化していく中で、子どもたちが希望する高校で学べるよう、入学者選抜のあり方も検討しつつ、学びの多様化学校のような高校を新たに作っていく必要があるのではないか。
- 昴学園高校は、地域の方や小中学生と双方の活性化をめざしてともに学びあい、交流を進めており、同校の存続を願うものの、今後の生徒減を考えると簡単ではないことも理解している。各高校の活性化に向けた取り組み状況を共有しながら、15年先を見据えつつ、ある程度イメージが可能なスパンで考えていくことも必要ではないか。
- 増加傾向にある不登校生徒や外国籍の生徒は、私立の通信制高校に進学することが多くなっているが、高校卒業後の進路選択に必要な力の育成に関しては、気がかりな部分がある。国籍の多様化や年度途中での転入も課題となる中、県立高校においても外国籍の生徒の学びの場について検討してもらいたい。

- 地元就職や定住につなげる観点から、例えば週に3日は学校で学び、残りの2日は地元企業で実習するような学科があってもよいのではないか。
- 総合専門高校や、全日制と定時制、通信制の3つの課程を行き来できる愛知県のフレキシブルハイスクールなど、他地域や他府県の先進事例を参考にして検討を進めてはどうか。

① 学校規模について

- ☆学校行事や部活動の活性化という視点から考えると、高校には一定規模が必要
- ◇生徒の社会性を育むには、経験上一定の学級規模があったほうが望ましい
- ◇高校の学びや配置のあり方を考える上では、教員数の確保や多様な選択科目や部活動の維持を視点としたスケールメリットも重要
- ◎教科指導や部活動などの学校運営については、学級減に伴う教員数の減少による影響も考慮する必要がある
- ☆●外国につながるのある生徒や不登校生徒の学びを支える高校について議論すべき
- 部活動の維持・活性化を視野に入れた議論が必要
- 専門性を維持するため大学進学ニーズに応える高校は6学級以上、専門高校は4学級以上が望ましい。部活動の地域展開や学級編制の改善も視野に、地域の高校のあり方を検討する必要がある

② 学びの選択肢について

- 高校での学びの選択肢をできるかぎり多く維持することが必要
- ◇●近隣地域との流入・流出や私立高校への進学状況をふまえ、学びの選択肢の維持と地域の高校の魅力向上を図るため、学びを抜本的に検討する必要がある
- ▽現在の全ての専門学科を残すことは不可能。今後、学級数を減じながらも学びの選択肢は減らさない対応を具体的に検討することが必要
- ▽現在のバランスのよい学びの配置を維持
- ☆●異なる学科の併設や、学科の枠を超えた連携も視野に入れながら、通学時間も考慮しつつ、学びの集約化や多様な学びの環境に関する議論が必要
- 子どもたちのキャリアにつながる学びの選択肢を念頭に、協議することが必要
- 総合専門高校や他県のフレキシブルハイスクールなどの先進事例を参考に、多様な学びについて検討を進める必要がある

③ その他

- 松阪地域全体を見通した高校の学びと配置のあり方を協議することが必要
- 地域の生徒が地域の高校へ進学するためには、多様な学科の維持や高校の魅力化が必要
- ◎学科のバランス、公立と私立のバランスを意識しながら、慎重に議論する必要がある
- ◎令和11年度の生徒減による学級減への対応については、遅くともその3年前の令和8年度までに方向性を出す必要がある
- ☆学級数と学校数のバランスに留意して、検討を進める必要がある
- 老朽化対策や防災の観点に加え、伊勢志摩地域との再編も視野に入れた建替えの議論が必要
- 地域の高校の活性化の状況もふまえ、15年先を見据え、イメージが可能な期間で再編を検討する必要がある
- 地域内での就職を促すため、企業実習が可能な学科の設置

(4) 今後の協議に向けて

- 15年先までに松阪地域で県立高校が10学級程度も減少するのであれば、現在地域にある専門学科の統廃合も検討していく必要がある。
- 15年先を見据えた高校の学びと配置のあり方を検討していく際には、変化の激しい時代における子どもたちの進路実現のため、これまでの価値観だけでなく、子どもたちを軸にした教育課程の改革などについて議論していく必要がある。
- 高校配置のあり方を考えるにあたっては、各学校の学びの内容や特色、地域における様々な教育活動等を共有しながら協議を進めてはどうか。
- 松阪地域における過去の高校統合の事例をはじめ、今年度他地域の協議会で検討された統合や募集停止に関する意思決定の過程、及び学びの保障の方向性等を参考にしながら、協議を進めるのがよいのではないか。
- 学校の小規模化が進むと教員数が少なくなるため、生徒の幅広い学びの選択肢を確保することが難しくなる。協議会では教員定数や教育予算なども考慮しながら、高校配置のあり方について協議を進めていきたい。
- 地域から高校がなくなることは、地域の人々にとって大きな出来事である。15年先の生徒減の現実を受け止め、協議会でしっかり議論していく必要がある。
- 中学生や保護者の意見をアンケート調査で聞いてはどうか。その際、保護者の中でも様々な意見があるため、質問内容だけでなく世代別などに集計するなどの工夫も考えられる。子どもたちの思いを取り入れながら協議会の議論を進めていきたい。
- 専門学科の高校では資格取得も含めた専門教育を進めているが、その中で生徒たちが何に魅力を感じ、興味を持ったのかなどを把握したうえで高校の学びについて検討していきたい。
- 明和町は松阪市と伊勢市の間に位置しており、松阪市内だけでなく伊勢志摩地域への進学も多い。明和町内にも高校があれば小中高一貫した教育にも取り組みやすくなる。
- 大台町からは通学に時間はかかるものの、松阪地域において幅広く高校を選択することができる。この教育環境が維持できるよう議論を進めていきたい。
- 生徒数が減少する中、地域の高校へ進学する生徒を確保することが大事であり、そのためには高校側もより積極的な情報発信が必要である。
- この地域の豊かな学びを保障するために、統合ありきではなく、幅広い視野を持って協議を進めていきたい。
- ◇ 県や松阪地域がめざす15年先の社会の姿をふまえ、どういった人材の育成が必要なのかの議論を進めたい。
- ◇ 子どもたちをメインとした議論を進めるためにも、アンケート調査が必要ではないか。
- ◇ 今後の議論の参考とするため、他地域の専門高校や協議会の状況が分かる資料があるとよい。
- ◇ 学びの環境をつくるのは大人の責任である。その際には、子どもに寄り添うことや、子どもの思いを大切にしながら議論を進めたい。
- ◇ 松阪地域外へ進学している現状がある中、この地域の子どもたちが、この地域で学べる状況が作られるよう、子どもたちの思いや願いが叶えられる地域の高校の魅力をさらに高めていきたい。
- ◇ 学科の配置については、今後進展が予想される業種や職種をふまえて議論を進めたい。
- ◇ ICTの発達等により働き方が多様化し、特別な支援を必要とする生徒の卒業後の受け皿が拡大していることをふまえ、特別支援学校だけでなく、高校においても、特性を持った生徒が自分の得意なことを伸ばすことのできる環境整備が必要である。
- ◇ 受験生は、希望よりも学力的に入りやすい高校を選択したり、早く進路を決めたりする傾向が見られる。また、コロナ禍で増えた不登校の生徒の多くが、県外の通信制高校に進学する状況も見られる。これらの状況もふまえ、地域に根差した教育を推進する観点から、高校の魅力化について考えていきたい。

- ◇ 松阪地域は他地域と比べて私立高校の定員の比率が高い。当地域全体の高校のあり方を検討する際には、県立高校だけでなく、私立高校を含めて議論すべきである。
- ◎ 中学生向けの進路説明会では、大学合格実績や就職先だけではなく、小規模校で独自に行っている特色ある教育や、どのような学びができるのかをもっとアピールするべきである。
- ▽ 企業説明会や、企業と高校が連携した取組を進めることにより、地元企業を知ってもらう機会が増えるとよい。
- ☆ 生徒や保護者が期待している社会性や協調性を育むには、ある程度の学校規模が必要ではあるが、通学のしやすさを重視する回答も多いことから、交通の利便性や通学費用も考慮して、どの場所に統合するかなどを慎重に議論する必要がある。
- ☆ 多様な学びや学習形態を展開する私立の通信制高校への進学者数が増加していることから、県立高校においても通信制課程や定時制課程を含めた学びの改革についての議論が必要なのではないか。
- 教員数の確保に課題があるものの、1学級の定員を減らし、学級数を確保することで、生徒や保護者の多様なニーズに応えることができるのではないかと。そのためにも引き続き、県から国に対して学級編制基準の引き下げの要望を続けるなど、県と国が連携していくことが大切である。
- かつて勤務した小規模校では、1学年3学級から2学級へと減少する中で、生徒が充実した高校生活を送り、希望する進路が実現できるよう努力を重ねたが、教員数が減ることで学校運営が厳しくなり、現在は1学級となっている。こうした状況が訪れる前に、早期に方向性を打ち出していくことも必要ではないか。
- 県立普通科に関しては、当地域の高校は2校だが、今後私立高校への進学者が増えることが懸念される。
- 少人数だからこそ輝く子どもたちは、普遍的に在るのではないかと。高校に送り出す側として、そうした高校がこの地域にあってほしい。
- 高校現場では、将来の学校の存続について不安を抱えつつも、子どもたちに精一杯の学びを提供しようと努力している。今後生徒数が減少したとしても、そのときの子どもたちにとってよりよい学びを実現するという思いを持ち続けたい。
- 小学生の保護者は高校のことには関心を持ちにくいと、高校再編が最も影響を及ぼす年代となることが考えられる。こうした世代の保護者に対する情報提供や、高校のあり方について一緒に考える機会を増やしていくことが大切ではないか。

- 地域にある専門学科の統廃合を検討していく必要がある
- 子どもを軸にした教育課程の改革などについての議論も必要
- 教員定数や教育予算なども考慮しながら協議する必要がある
- ◇中学生や保護者へのアンケート調査の結果を踏まえた議論が必要
- ◇子どもに寄り添い、子どもたちの思いや願いが叶えられるよう地域の高校の魅力を高める必要がある
- ◇当地域全体の高校のあり方を検討する際には、県立高校だけでなく、私立高校を含めて議論
- ◎小規模校で独自に行っている特色ある教育や学びをアピールすべき
- 学級数を確保するためにも、学級編制標準の引下げ要望を継続すべき
- 小規模化により学校運営が困難になる前に、再編の方向性を示す必要がある
- 少人数だからこそ個性が輝く生徒のため、地域に小規模校の良さを残す視点も必要
- 生徒にとって最善の学びを提供し続ける姿勢を維持すべき
- 高校再編の当事者となる世代への情報提供と、その世代と一緒に考える機会が必要

松阪地域の中学校卒業生進路先の推移

(R7第1回協議会資料)

再掲資料 1

(1)松阪地域(1市3町)の状況

市町	卒業年度	卒業 者数	松阪地域(全日制)									地域内 合計 ①	地域外(全日制)				地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
			県立高校							私立高校			伊勢 志摩 地域 県立	津 地域 県立	県内 私立・ 高専	その他 県立、 県外			
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昂学園	県立 小計	三重	私立 小計								
1市3町の合計	6年度 (R7.3卒)	1,879	222	137	115	79	144	8	705	314	314	1,019	141	243	218	44	646	214	1,879
	5年度 (R6.3卒)	1,856	207	151	104	80	130	14	686	307	307	993	140	264	219	42	665	198	1,856
	4年度 (R5.3卒)	1,934	239	150	107	68	135	17	716	354	354	1,070	168	235	231	46	680	184	1,934

※地域外：松阪地域の全日制高校(県立・私立)以外の高校・高専への進学者数
 ※その他：定時制高校、通信制高校、特別支援学校、各種学校への進学及び就職等の数

(2)市町別の状況

	卒業年度	卒業 者数	松阪地域(全日制)									地域内 合計 ①	地域外(全日制)				地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
			県立高校							私立高校			伊勢 志摩 地域 県立	津 地域 県立	県内 私立・ 高専	その他 県立、 県外			
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昂学園	県立 小計	三重	私立 小計								
松阪市	6年度 (R7.3卒)	1,446	176	110	89	61	94	1	531	265	265	796	69	224	151	36	480	170	1,446
	5年度 (R6.3卒)	1,467	170	127	81	66	83	2	529	280	280	809	62	241	151	36	490	168	1,467
	4年度 (R5.3卒)	1,457	179	127	77	57	84	6	530	290	290	820	73	223	149	35	480	157	1,457
多気町	6年度 (R7.3卒)	176	22	9	10	18	29	0	88	22	22	110	14	10	26	3	53	13	176
	5年度 (R6.3卒)	148	16	9	4	14	34	3	80	13	13	93	19	5	14	5	43	12	148
	4年度 (R5.3卒)	199	22	5	18	11	37	2	95	28	28	123	25	2	29	7	63	13	199
明和町	6年度 (R7.3卒)	198	17	14	12	0	9	1	53	16	16	69	53	9	36	2	100	29	198
	5年度 (R6.3卒)	191	15	12	12	0	4	1	44	10	10	54	54	17	48	1	120	17	191
	4年度 (R5.3卒)	218	28	13	8	0	4	1	54	24	24	78	67	10	48	2	127	13	218
大台町	6年度 (R7.3卒)	59	7	4	4	0	12	6	33	11	11	44	5	0	5	3	13	2	59
	5年度 (R6.3卒)	50	6	3	7	0	9	8	33	4	4	37	5	1	6	0	12	1	50
	4年度 (R5.3卒)	60	10	5	4	0	10	8	37	12	12	49	3	0	5	2	10	1	60

※地域外：松阪地域の全日制高校(県立・私立)以外の高校・高専への進学者数
 ※その他：定時制高校、通信制高校、特別支援学校、各種学校への進学及び就職等の数

松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について

1 生徒を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること (問6)

「通学のしやすさ・距離」(49.3%)、「学校の雰囲気・イメージ」(49.0%)に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」(42.4%)、「学びたい学科やコースがある」(39.5%)、「入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている」(35.7%)の順となっている。

(2) 高校に期待する教育 (問8)

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」(52.6%)、「基本的な知識が身につく教育」(43.1%)をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」(42.0%)、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(40.1%)を期待している。

(3) 希望する学級数について (問10)

多い順に「4～6学級」(42.1%)、「2～3学級」(36.3%)、「1学級」(18.0%)、続いて「7学級以上」(3.7%)となっている。

(4) 通学時間について (問11)

多い順に「60分以内まで」(51.1%)、「30分以内まで」(28.9%)、「90分以内まで」(13.5%)、「120分以内まで」(4.1%)、「121分以上」(2.3%)となっている。

(5) 将来就きたい仕事について (問12)

「まだ決まっていない、わからない」(40.4%)が多く、「健康・スポーツ関係(インストラクター、選手・監督など)」(13.9%)、「医師、看護師、薬剤師など」(11.4%)と「理容、美容関係」(11.4%)と続いている。

(6) 将来生活する場所について (問14)

「まだ決まっていない、わからない」(32.5%)が最も多く、続いて、「県外」(20.6%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」(18.7%)、「地元(現在住んでいる市町)」(12.3%)となっている。

2 保護者を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること (問6)

「学びたい学科やコースがあること」(73.3%)に続いて、「通学のしやすさ・距離」(64.4%)、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」(59.4%)に続いて、「進学・就職の実績」(39.5%)、「確かな学力を身につける授業が充実していること」(39.2%)、となっている。

(2) 高校に期待する教育 (問8)

「自ら学び続ける力が身につく教育」(61.0%)をはじめ、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(60.7%)、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」(53.6%)、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」(49.0%)を期待している。

(3) 希望する学級数について (問10)

多い順に「4～6学級」(45.4%)、「2～3学級」(36.9%)、「1学級」(11.9%)、続いて「7学級以上」(5.8%)となっている。

(4) 通学時間について (問11)

多い順に「60分以内まで」(66.4%)、「30分以内まで」(24.1%)、「90分以内まで」(8.3%)、「120分以内まで」(0.9%)、「121分以上」(0.2%)となっている。

(5) 将来生活する場所について (問12)

「本人の希望次第」(71.2%)が最も多く、続いて、「地元(現在住んでいる市町)」(9.1%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」(6.8%)となっている。

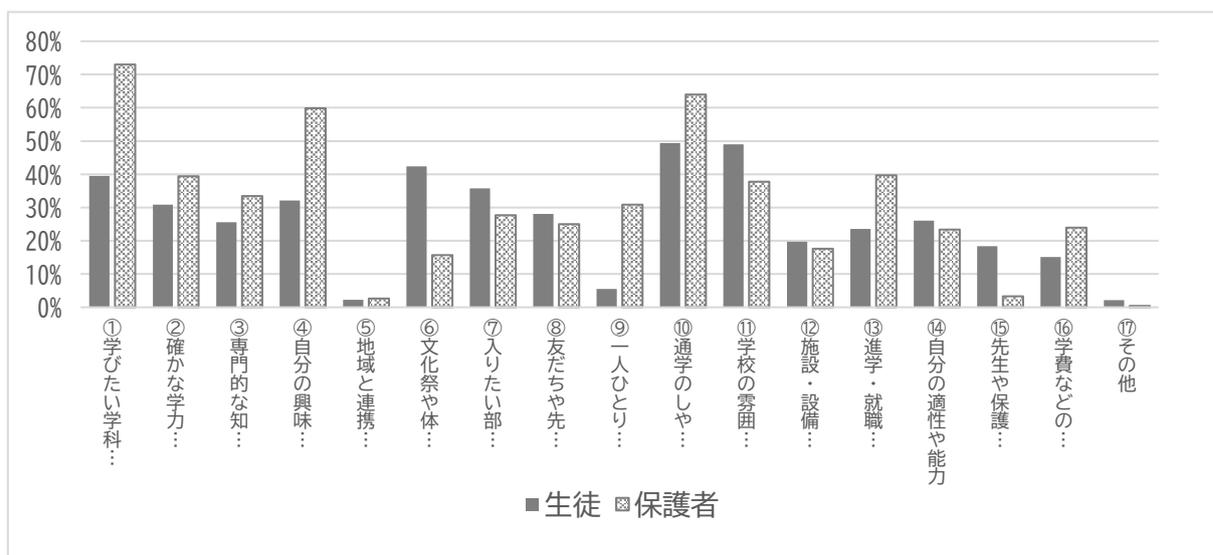
(6) 今後の松阪地域の県立高校のあり方について (問13)

今後の松阪地域の高校については、「一定の統合は避けられない」(68.4%)が最も多く、続いて「統合は避けるべき」(27.0%)、「積極的に統合を進めるべき」(4.5%)となっている。

3 生徒と保護者の回答の比較

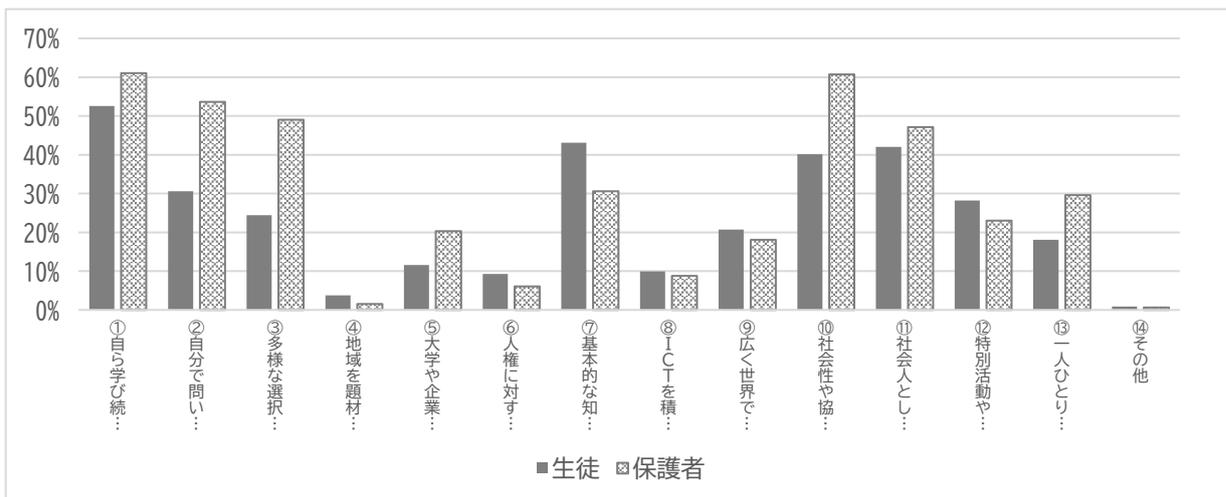
(1) 高校選びで重視すること (回答は6つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,851人)	
		○数字	割合	○数字	割合
① 学びたい学科やコースがある	④	576	39.5%	①1,357	73.3%
② 確かな学力を身につける授業が充実している	⑦	450	30.8%	⑤ 725	39.2%
③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる	⑩	373	25.6%	⑦ 615	33.2%
④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる	⑥	468	32.1%	③1,100	59.4%
⑤ 地域と連携した活動が充実している	⑯	33	2.3%	⑯ 51	2.8%
⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	③	618	42.4%	⑭ 294	15.9%
⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている	⑤	521	35.7%	⑨ 522	28.2%
⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い	⑧	409	28.0%	⑩ 461	24.9%
⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる	⑮	81	5.6%	⑧ 589	31.8%
⑩ 通学のしやすさ・距離	①	720	49.3%	②1,192	64.4%
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	②	715	49.0%	⑥ 708	38.2%
⑫ 施設・設備の充実	⑫	288	19.7%	⑬ 310	16.7%
⑬ 進学・就職の実績	⑪	344	23.6%	④ 731	39.5%
⑭ 自分の適性や能力	⑨	380	26.0%	⑫ 434	23.4%
⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見	⑬	268	18.4%	⑮ 63	3.4%
⑯ 学費などの経費負担	⑭	220	15.1%	⑪ 444	24.0%
⑰ その他	⑰	31	2.1%	⑰ 11	0.6%



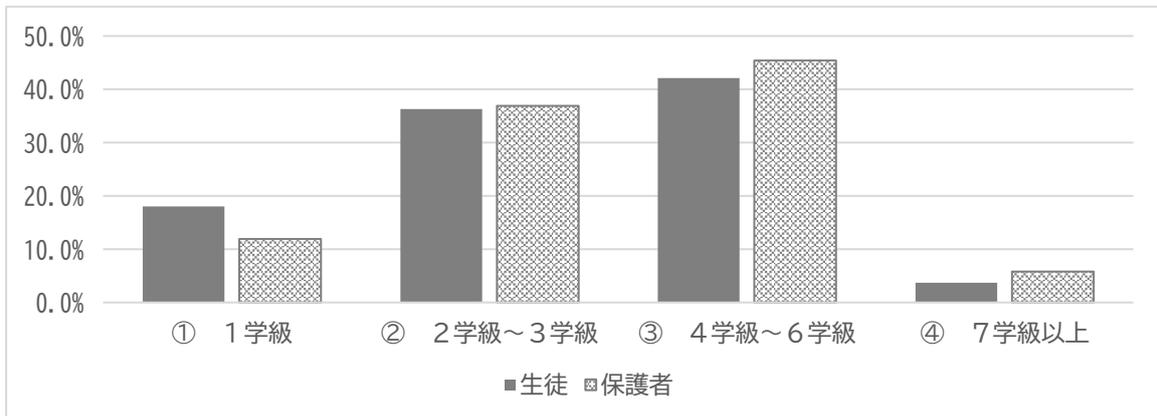
(2) 高校に期待する教育 (回答は5つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,851人)	
		回数	割合	回数	割合
① 自ら学び続ける力が身につく教育		① 767	52.6%	① 1,129	61.0%
② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育		⑤ 447	30.6%	② 993	53.6%
③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育		⑦ 356	24.4%	④ 907	49.0%
④ 地域を題材として学ぶ教育		⑬ 56	3.8%	⑬ 28	1.5%
⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育		⑩ 169	11.6%	⑨ 376	20.3%
⑥ 人権に対する意識が高まる教育		⑫ 135	9.3%	⑫ 113	6.1%
⑦ 基本的な知識が身につく教育		② 629	43.1%	⑥ 567	30.6%
⑧ ICTを積極的に活用する教育		⑪ 145	9.9%	⑪ 163	8.8%
⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育		⑧ 302	20.7%	⑩ 335	18.1%
⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育		④ 585	40.1%	② 1,123	60.7%
⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育		③ 613	42.0%	⑤ 871	47.1%
⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育		⑥ 411	28.2%	⑧ 426	23.0%
⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育		⑨ 264	18.1%	⑦ 548	29.6%
⑭ その他		⑭ 13	0.9%	⑭ 11	0.6%



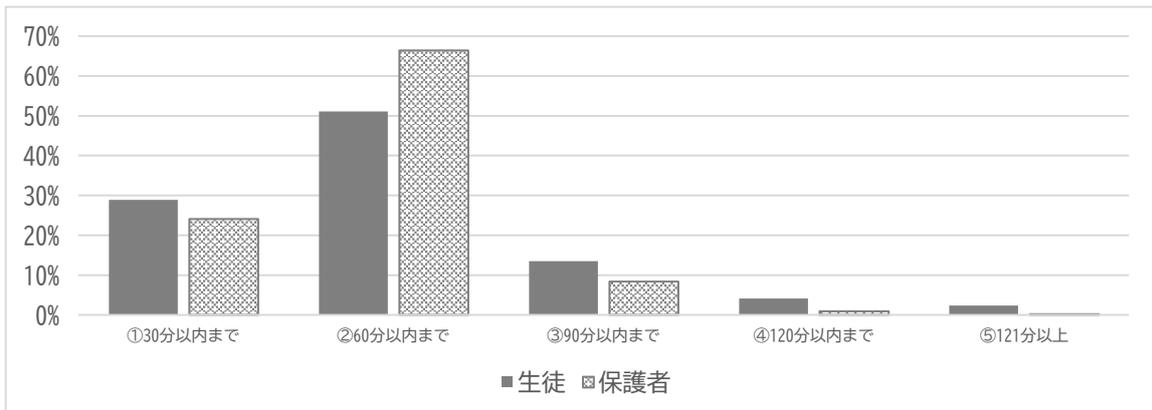
(3) 1学年あたりの学級数 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,852人)	
		人数	割合	人数	割合
①	1学級 (40人)	③ 262	18.0%	③ 220	11.9%
②	2学級~3学級 (80人~120人)	② 529	36.3%	② 684	36.9%
③	4学級~6学級 (160人~240人)	① 614	42.1%	① 841	45.4%
④	7学級以上 (280人~)	④ 54	3.7%	④ 107	5.8%



(4) 進学したい高校までの通学時間 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,850人)	
		人数	割合	人数	割合
①	30分以内まで	② 422	28.9%	② 446	24.1%
②	60分以内まで	① 746	51.1%	① 1,229	66.4%
③	90分以内まで	③ 197	13.5%	③ 154	8.3%
④	120分以内まで	④ 60	4.1%	④ 17	0.9%
⑤	121分以上	⑤ 34	2.3%	⑤ 4	0.2%



4 生徒と保護者の回答の比較より

(1)「高校選びで重視すること(17個の選択肢から6つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位6つに選択された項目のうち、共通するもの

① 学びたい学科やコースがある

生徒4位 576人(39.5%)、保護者1位 1,357人(73.3%)

④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる

生徒6位 468人(32.1%)、保護者3位 1,100人(59.4%)

⑩ 通学のしやすさ・距離

生徒1位 720人(49.3%)、保護者2位 1,192人(64.4%)

⑪ 学校の雰囲気・イメージ

生徒2位 715人(49.0%)、保護者6位 708人(38.2%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位6つに選択された項目

② 確かな学力を身につける授業が充実している

生徒7位 450人(30.8%)、保護者5位 725人(39.2%)

⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

生徒3位 618人(42.4%)、保護者14位 294人(15.9%)

⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている

生徒5位 521人(35.7%)、保護者9位 522人(28.2%)

⑬ 進学・就職の実績

生徒11位 344人(23.6%)、保護者4位 731人(39.5%)

〈参考〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

⑤ 地域と連携した活動が充実している

生徒16位 33人(2.3%)、保護者16位 51人(2.8%)

⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる

生徒15位 81人(5.6%)、保護者8位 589人(31.8%)

⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見

生徒13位 268人(18.4%)、保護者15位 63人(3.4%)

(2)「高校に期待する教育(14個の選択肢から5つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位5つに選択された項目のうち、共通するもの

① 自ら学び続ける力が身につく教育

生徒1位 767人(52.6%)、保護者1位 1,129人(61.0%)

② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育

生徒5位 447人(30.6%)、保護者2位 993人(53.6%)

⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育

生徒4位 585人(40.1%)、保護者2位 1,123人(60.7%)

⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

生徒3位 613人(42.0%)、保護者5位 871人(47.1%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位5つに選択された項目

③多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育

生徒7位 356人(24.4%)、保護者4位 907人(49.0%)

⑦基本的な知識が身につく教育

生徒2位 629人(43.1%)、保護者6位 567人(30.6%)

〈参考〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

④地域を題材として学ぶ教育

生徒13位 56人(3.8%)、保護者13位 28人(1.5%)

⑥人権に対する意識が高まる教育

生徒12位 135人(9.3%)、保護者12位 113人(6.1%)

(3) 「1学年あたりの学級数(1つ選択)」について

生徒、保護者とも「4～6学級」(生徒42.1%、保護者45.4%)と最も多く、次いで「2～3学級」(生徒36.3%、保護者36.9%)、「1学級」(生徒18.0%、保護者11.9%)と続いている。

(4) 「進学したい高校までの通学時間(1つ選択)」について

生徒、保護者とも「60分以内まで」(生徒51.1%、保護者66.4%)、「30分以内まで」(生徒28.9%、保護者24.1%)と続き、さらに「90分以内まで」(生徒13.5%、保護者8.3%)、「120分以内まで」(生徒4.1%、保護者0.9%)となっている。

令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ ～今後の学びと配置のあり方について～

1 これまでの経緯

- 本協議会は、「県立高等学校活性化計画（R4～R8）」（以下、「計画」という。）に基づき、松阪地域における高等学校の特色化・魅力化を図り、生徒にとって魅力ある学習環境を整備することを目的に、令和4年度に設置されました。
- 本協議会では、令和5年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえ、地域の県立高等学校を取り巻く状況や現状、今後の地域の少子化の進行、他地域の協議会での協議内容等の情報を共有しつつ、当地域の子どもたちにとっての最善の教育環境を実現することを第一に、子どもたちの人権や学びなどの視点も大切にしながら協議を進めてきました。
- 令和6年度は、今年度実施した地域の中学生と保護者へのアンケート結果もふまえながら、引き続き、松阪地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について協議を継続しているところです。

【参考】「県立高等学校活性化計画」（令和4年3月策定）

「これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方」の概要

- ・これからの高等学校は、社会の変化をふまえ、持続可能な社会の創り手を育成することが求められており、そのため、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が一層重要となっている。
- ・3学級以下の小規模校活性化の検証結果、15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にあるため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1学年3学級以下の高等学校は統合についての協議も行う。これらのことについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議する。
- ・こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。
- ・1学年3学級以下の高等学校のうち、他の高等学校では担うことが難しい県内唯一の学科や学びの形態を有する高等学校は、引き続き活性化に取り組むこととする。
- ・次代の担い手となる三重の子どもたちがこれからも安心して学び、豊かな社会性・人間性が育まれる高校教育を進めていく。

2 松阪地域の状況

- 当地域には、私立高校や定時制課程、通信制課程を含め、普通科・普通科系専門学科、職業系専門学科、総合学科がバランスよく配置されており、6校ある県立高校（全日制）における令和7年度入学生の学級数は、普通科・普通科系専門学科9学級、職業系専門学科12学級、総合学科4学級の合計25学級となっています。
- 当地域の中学校卒業者の約3人に1人が、伊勢志摩地域や津地域などの地域外の全日制高校等へ進学するとともに、約6人に1人が当地域の私立高校へ進学している状況にあります。
- 当地域の中学校卒業生数は、令和7年3月の1,879人から、令和11年3月には1,586人（令和7年3月比293人減）となることが見込まれており、さらに令和21年3月には1,049人（令和7年3月比830人減）と減少傾向が続きます。

- このことから、当地域の1学年あたりの総学級数は、令和7年度入学生の25学級から、令和5年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する令和21年度には11～14学級程度となることを見込まれています。

3 今後の学びと配置のあり方について

(基本的な考え方)

- 子どもたちには、夢や希望をかなえるため、自らの可能性を引き出し、あらゆる場面であきらめずにチャレンジする「未来を切り拓く力」や、コミュニケーション能力、課題解決能力に加え、問いを立てる力、あきらめずに困難に立ち向かう力を育てる必要があります。
- 地域を大切に作る心や、地域を愛する心を育むための「地域に根差した学び」を推進する必要があります。
- 特別な支援が必要な生徒や外国につながる生徒、不登校の状況にある生徒などが増加傾向にあることから、多様な背景をもつ子どもたちの教育環境の整備を大切な視点の一つとして、協議を進めます。
- 急速に社会の変化が進む中、複雑で予測が困難な時代に対応できる人材を育成するとともに、将来の松阪地域の担い手育成の視点から、小中学生に地元の高校から情報発信するなど、小中高が連携したキャリア教育に取り組むことが大切です。

(再編を検討するうえで大切にしたいこと)

① 学校規模について

- 高校の学びや配置のあり方を考えるうえでは、教員数の確保や多様な選択科目の開設、部活動の維持の視点から、学校規模が重要な要素となります。
- 多様な選択科目を開設するには、一定の教員数が必要であり、特に、進学ニーズに応える普通科高校については、専門性の高い教員を各科目に配置することが求められることから、1学年あたり8学級が望ましく、少なくとも6学級を下回らないよう学級数を維持する必要があります。
- 各学校においては、特色ある活動に取り組んだり、全国で活躍するチームや個人を輩出したりするなど、活発な部活動が行われており、地域の子どもたちへのアンケート結果からも、高校を選択するうえで、部活動が重視されています。こうしたニーズに応えるためには、一定の学校規模が必要であり、部活動の設置数や生徒の部活動への参加状況との相関から、部活動を維持・活性化する視点において1学年あたり4学級以上が望ましいと考えます。
- 現計画で統合の検討対象とされる3学級以下の高校については、学級減による教員数の減少が、教科指導や部活動など学校運営全体に影響を与えることが懸念されます。一方で、今年度実施した中学生と保護者へのアンケート結果では、3学級以下を希望する声もあることから、当地域の小規模校の教育実践や、他地域の協議会における小規模校のあり方にかかる議論を参考にしつつ、学級数と学校数のバランスに留意したうえで、再編について丁寧に議論する必要があります。

② 学びの選択肢について

- 現在、当地域の県立高校には、普通科・普通科系専門学科、職業系専門学科、総合学科がバランスよく設置されており、近隣地域との流入・流出状況や公立と私立のバランス等も意識しながら、地域全体を見通して、丁寧に議論する必要があります。

- 当地域の普通科・普通科系専門学科においては、多くの卒業生が高等教育機関への進路実現を果たしています。今後も、大学等への進学ニーズに応える教育環境を維持する必要があります。
- 当地域の専門高校には、農業、工業、商業、家庭の職業系専門学科が設置されており、卒業生の多くが地域の産業を支えていることから、これら専門学科の学びの選択肢を維持し、これから先も地域を支える人材を育成する必要があります。
- しかしながら、今後の生徒数の減少をふまえると、専門高校の統合も避けられない状況であり、現在の専門学科すべてを維持することは難しくなるため、異なる学科の生徒が協働して課題に取り組んだり、異なる学科の専門的な教科・科目を選択することを可能にしたりするなど、学科の枠を越えた連携も視野に入れながら、学びの集約化に関する議論を進める必要があります。
- 当地域では2校で総合学科が設置されており、それぞれで特色ある学びや、多様な生徒に対応する学びを展開しています。今後、生徒が減少していく中において、総合学科のあり方や活性化にかかる協議を進める必要があります。
- また、多様化するニーズにあわせた定時制課程や通信制課程を含めた県立高校の学びのあり方についても議論する必要があります。
- 現行の40人定員の学級編制基準を引き下げるとは、中学校卒業生数の減少にあっても総学級数の減少幅を抑えるとともに、子どもたちにとってのよりよい学習環境の整備や、教職員定数の確保等につながることから、県と連携した国への要望についても検討する必要があります。

4 今後の協議の進め方

- 当協議会では引き続き、現計画に基づき、令和5年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先に1学年あたりの総学級数が11～14学級程度まで減少していく途上にあるという視点をもって、これまで協議してきた内容をさらに深め、松阪地域全体を見通したこれからの高校の学びと配置のあり方を協議していきます。
- 協議にあたっては、近隣地域との流入・流出状況や地域の私立高校を含めた進学状況等もふまえ、学びの選択肢の維持や多様な子どもたちの進路が保たれるよう、課程（全日制・定時制・通信制）や学科の枠を越えて、総合的に考えていきます。
- 中学校卒業生数の減少に応じた学級減への対応方針の協議については、当地域で見込まれる総学級数の視点のみで考えるのではなく、多様な背景をもつ子どもたちを含め、当地域の子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育環境が提供されるよう、子どもたちのことを第一に考え、議論する必要があります。
- これらのことにより、松阪地域の子どもたちが、この地域の高校に通い、学んでみたいと思えるよう、また、松阪地域の将来を担う子どもたちを育てるよう、高校の特色化・魅力化についての議論を進める必要があります。
- また、高校の統合を含めた学級減への対応を行う場合には、引き続き、丁寧に議論を進める必要があります。しかし、募集停止や統合を行う場合においては、中学生が進路選択を行うまでには、高校3年生の時点で新入生が入ってこなくなる状況等を周知しておく必要があることから、遅くともその3年前には、当協議会の方向性を示す必要があります。
- 以上のことから、令和8年度から令和11年度に想定される5学級程度の減少への対応については、これまでの協議をふまえ、次のとおりとします。

【令和8年度】

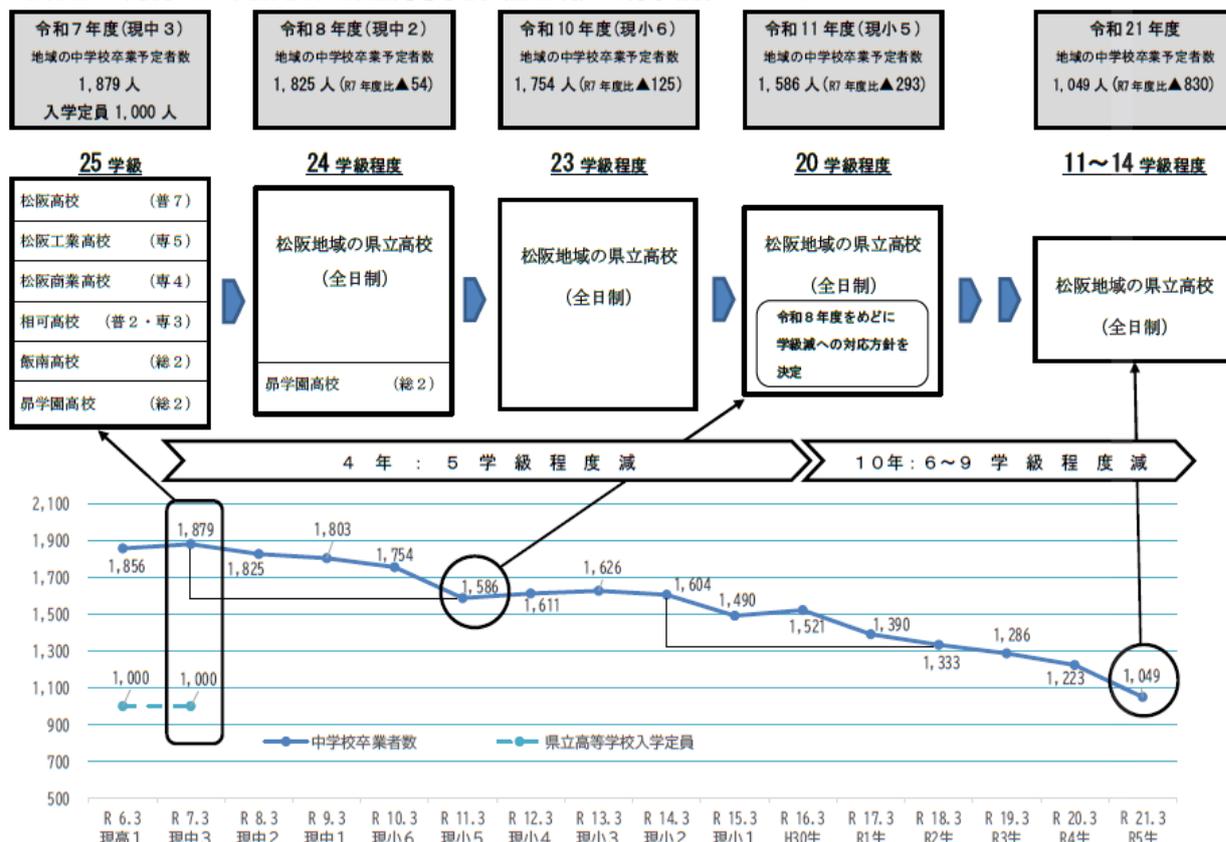
○令和8年度に見込まれる1学級減への対応については、「3 今後の学びと配置のあり方について」の方針となる「基本的な考え方」や「再編を検討するうえで大切にしたいこと」をふまえるとともに、中学生の進路選択に大きな影響を及ぼすことがないよう、統合ではなく、学級減で対応することが望ましい。

【令和10年度・令和11年度】

○2か年で4学級程度と大幅な減少が見込まれることから、「3 今後の学びと配置のあり方について」の方針に加え、次期計画の策定の議論も注視しながら、現計画に基づき再編も含めて協議を進め、令和8年度までに段階的に協議会の方向性をとりまとめる。

<参考：第2回松阪地域高等学校活性化推進協議会資料より>

令和21年度までの松阪地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について



次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて

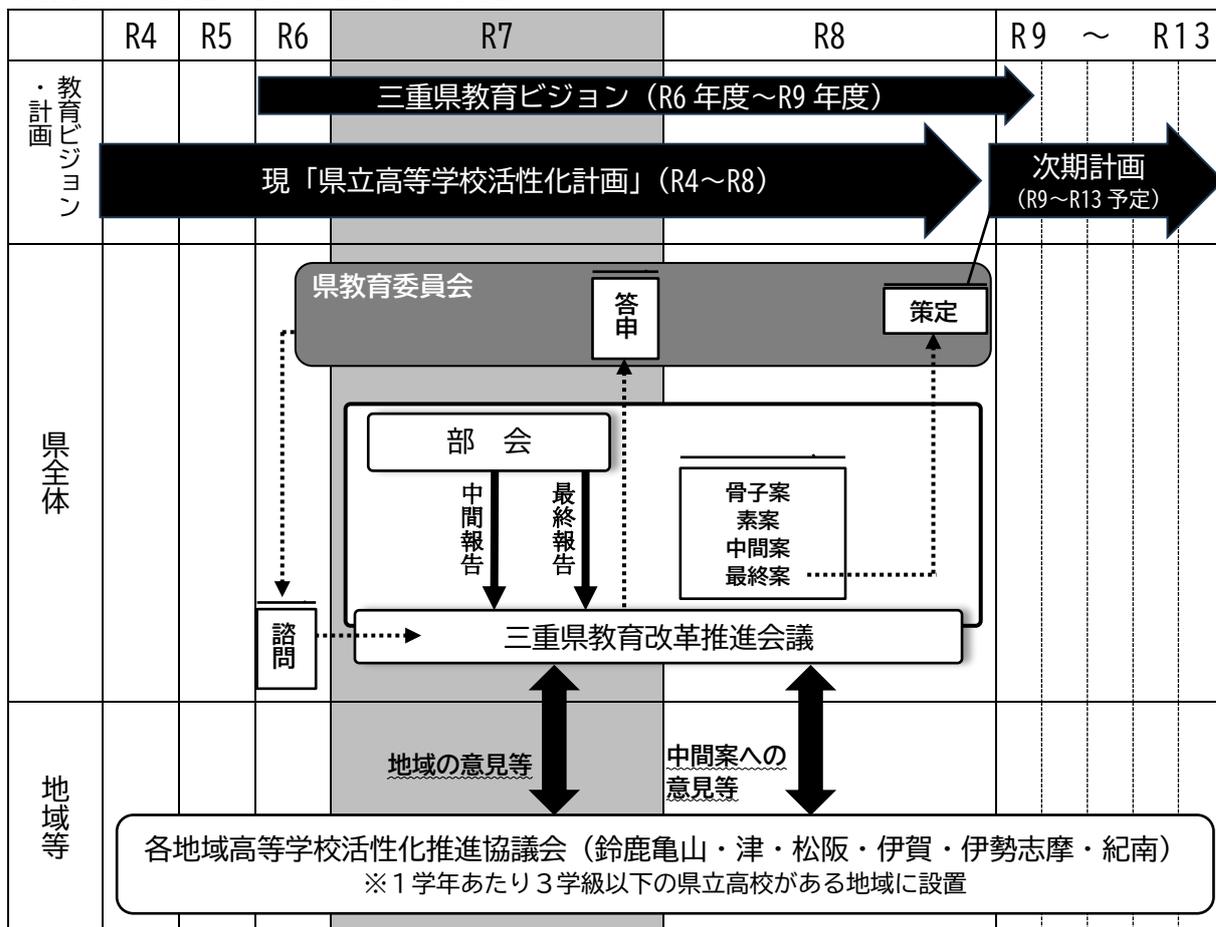
1 三重県教育改革推進会議における審議

現行の県立高等学校活性化計画（以下、「計画」という。）は令和4年から令和8年が計画期間となっていることから、県教育委員会の附属機関である三重県教育改革推進会議（以下「推進会議」という。）の審議を経て次期計画を令和8年度末に策定します。

令和7年3月に開催された推進会議では、県教育委員会教育長から次期計画の策定に係る県立高校の学び並びに規模及び配置のあり方について諮問され、令和8年3月31日までに報告することとなっています。

また、その審議については、推進会議と併せ、専門的な調査研究を行うための部会（「県立高等学校の在り方調査研究部会」）が設置され、今年度集中的に審議されることとなっています。

2 次期計画の策定に向けた動き（予定）



※令和7年度の推進会議（全体会）は2回程度、部会は4回程度の開催見込み

松阪地域 中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

(R7第1回協議会資料)

再掲資料5

令和7年5月1日 教育政策課調べ

	R 4.3 卒業	R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 卒業	R 8.3 現中3	R 9.3 現中2	R 10.3 現中1	R 11.3 現小6	R 12.3 現小5	R 13.3 現小4	R 14.3 現小3	R 15.3 現小2	R 16.3 現小1
松阪市	卒業者数 1,386	1,457	1,467	1,446	1,388	1,442	1,325	1,228	1,210	1,249	1,211	1,093	1,149
	前年度対比 R7.3対比	71	10	-21	-58	54	-117	-97	-18	39	-38	-118	56
多気郡	卒業者数 458	477	389	433	422	362	427	349	411	380	388	394	379
	前年度対比 R7.3対比	19	-88	44	-11	-60	65	-78	62	-31	8	6	-15
小計	卒業者数 1,844	1,934	1,856	1,879	1,810	1,804	1,752	1,577	1,621	1,629	1,599	1,487	1,528
	前年度対比 R7.3対比	90	-78	23	-69	-6	-52	-175	44	8	-30	-112	41
県内合計	卒業者数 16,244	16,055	15,891	15,718	15,517	15,261	14,807	14,345	14,044	14,030	13,399	12,753	12,408
	前年度対比 R7.3対比	-189	-164	-173	-201	-256	-454	-462	-301	-14	-631	-646	-345
					-201	-457	-911	-1,373	-1,674	-1,688	-2,319	-2,965	-3,310

【県立高校(全日制)】

松阪地域	入学定員 (学級数)	1,040 (26)	1,000 (25)	1,000 (25)	1,000 (25)
	欠員数※	30	17	14	5
県内合計	入学定員 (学級数)	10,880 (274)	10,640 (268)	10,440 (263)	10,240 (258)
	欠員数※	334	342	225	185

※欠員数は、学科・コースごとの欠員のみを積み上げた数値

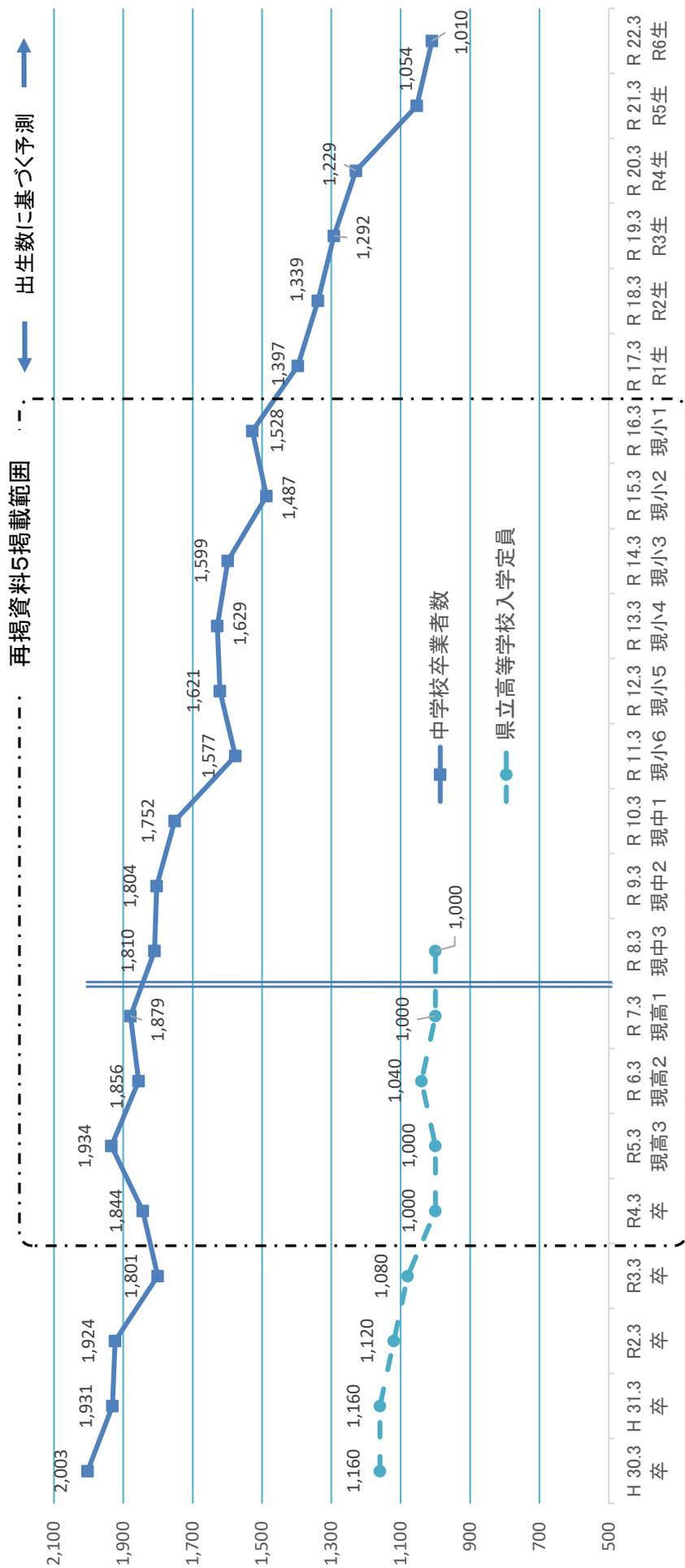
【私立高校(全日制)】

三重	入学定員	540	535	530	530
	入学者数	584	563	468	530

※令和7年度入学者数は、三重高校ホームページの記載人数を転記

(R7第1回協議会資料)

松阪地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移と予測



【松阪地域の出生数】

	H30年度生 現小1	R元年度生 5～6歳	R2年度生 4～5歳	R3年度生 3～4歳	R4年度生 2～3歳	R5年度生 1～2歳	R6年度生 0～1歳
松阪市	1,225	1,115	1,089	1,018	979	856	832
多気郡	316	292	264	281	259	209	191
合計	1,541	1,407	1,353	1,299	1,238	1,065	1,023
予測値	1,528	1,397	1,339	1,292	1,229	1,054	1,010

松阪地域および伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて(令和8年度)

(R7第1回協議会資料一部修正)

再掲資料7

松阪地域全日制課程	学校名		入学定員		1	2	3	4	5	6	7	8
	大学科	入学定員	普通科	工業化学科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	理数科	全25学級 普通科 9 専門学科 12 (工業5) (商業4) (農業2) (家庭1) 総合学科 4
県立	松阪高校	280	普通科	工業化学科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	理数科	
	松阪工業高校	200	専門学科	機械科	普通科	繊維デザイン科	自動車科	電気工学科				
	松阪商業高校	160	専門学科	総合ビジネス科	総合ビジネス科	総合ビジネス科	国際ビジネス科					
	飯南高校	80	総合学科	郷土・環境、介護福祉 総合進学、コンピュータ								
	相可高校	200	普通科	普通科	生産経済科	環境創造科	食物調理科					
私立	昇学園高校	80	総合学科	地域探究、総合スポーツ 美術工芸、生活福祉、環境技術								
	三重高校	530	普通科	普通科(ステラコース《特進クラス、選抜クラス》・ナービスコース《進学クラス、アスリートクラス》、六年制)								

○定時制課程 県立 松阪工業高校 40人 普通科

○通信制課程 県立 松阪高校 200人 普通科

私立 みえ大台おおぞら高校 一人 ※認可申請中

伊勢志摩地域全日制課程	学校名		入学定員		1	2	3	4	5	6	7	8
	大学科	入学定員	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学コース
県立	宇治山田高校	160	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	全28学級 普通科 13 専門学科 14 (工業4) (商業4) (農業2) (家庭1) (福祉1) (水産2) 総合学科 1
	伊勢高校	280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	
	伊勢工業高校	160	専門学科	機械科	機械科	建築科	電気科					
	宇治山田商業高校	160	専門学科	商業科	商業科	情報処理科	国際科					
	明野高校	160	専門学科	生産科学科	食品科学科	生活教養科	福祉科					
	南伊勢高校 度会校舎	40	普通科	普通科								
	鳥羽高校	40	総合学科	総合学科								
	志摩高校	40	普通科	普通科								
	水産高校	80	専門学科	海洋・機関科	水産資源科							
	皇学館高校	315	普通科	普通科(特別進学コース、進学コース)								
私立	伊勢学園高校	230	普通科	普通科(特別進学コース、選択コース[情報ビジネス・生活デザイン・進学※]、看護医療コース)								

○定時制課程 県立 伊勢まなび高校 120人 普通科:午前の部40人、午後の部40人、ものづくり工学科40人(夜間)

○通信制課程 私立 皇学館高校 30人 普通科 ※R7:10:10認可

私立 英心高校(伊勢本校) 110人 普通科:(全日型、水曜、土曜の各コース)

私立 代々木高校 1,000人 普通科:(通学コース、通信一般コース等)

○高等専門学校 国立 鳥羽商船高等学校 140人 商船学科(40)、情報機械システム工学科(100)

※大学科の普通科には普通科系専門学科を含む

松阪地域の全日制高校の学びの配置状況（令和8年度）

(R7第1回協議会資料)

再掲資料8

学校名	学科	松阪地域の学び					その他
		普通	工業	商業	農業	家庭	
松阪	普通 (7)	普通 (5) 理数 (2)					
松阪工業	工業 (5)		工業化学 (1) 機械 (1) 繊維デザイン (1) 自動車 (1) 電気工学 (1)				
松阪商業	商業 (4)			総合ビジネス (3) 国際ビジネス (1)			
相可	普通 (2) 農業 (2) 家庭 (1)	普通 (2)			生産経済 (1) 環境創造 (1)	食物調理 (1)	
飯南	総合 (2)	総合進学		コンピュータ	郷土・環境		介護福祉
昴学園	総合 (2)	地域探究			環境技術		総合スポーツ 美術工芸 生活福祉

【備考】

- () 内は学級数を示す
- 飯南高校と昴学園高校は総合学科の系列のため学級数とはカウントしない。開設科目により、近い学科に分類
- 学級数は1学年あたりで、1学級40人ベースの学級数として表示

松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和7年3月卒)

再掲資料9

(R7第1回協議会資料)

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業生数
松阪	普通 理数	248	2	3	1	17	271
		91.5%	0.7%	1.1%	0.4%	6.3%	100.0%
松阪工業	工業	29	13	18	130	3	193
		15.0%	6.7%	9.3%	67.4%	1.6%	100.0%
松阪商業	商業	35	9	55	53	4	156
		22.4%	5.8%	35.3%	34.0%	2.6%	100.0%
飯南	総合	2	6	15	41	2	66
		3.0%	9.1%	22.7%	62.1%	3.0%	100.0%
相可	普通	32	13	27	8	0	80
		40.0%	16.3%	33.8%	10.0%	0.0%	100.0%
	農業 家庭	7	4	11	79	1	102
		6.9%	3.9%	10.8%	77.5%	1.0%	100.0%
昂学園	総合	15	3	15	23	4	60
		25.0%	5.0%	25.0%	38.3%	6.7%	100.0%

普通科計 (理数科含む)	280	15	30	9	17	351
	79.8%	4.3%	8.5%	2.6%	4.8%	100.0%
専門学科計	71	26	84	262	8	451
	15.7%	5.8%	18.6%	58.1%	1.8%	100.0%
総合学科計	17	9	30	64	6	126
	13.5%	7.1%	23.8%	50.8%	4.8%	100.0%
合計	368	50	144	335	31	928
	39.7%	5.4%	15.5%	36.1%	3.3%	100.0%

※上段は人数、下段は卒業生数に対する割合を表す

※「四年制大学」は大学校を含む

※「短大」は高専を含む

※「その他」は進学待機を含む

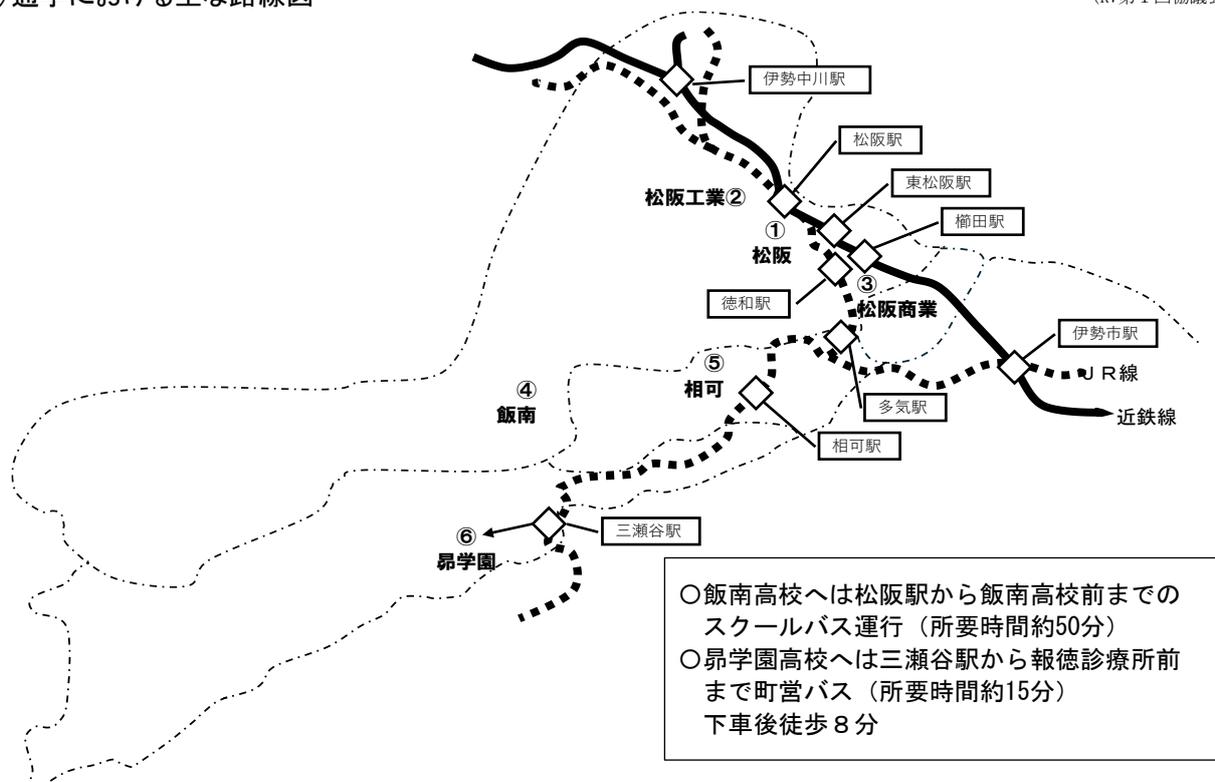
松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和6年3月卒)

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業生数
松阪	普通 理数	250	2	7	1	14	274
		91.2%	0.7%	2.6%	0.4%	5.1%	100.0%
松阪工業	工業	26	15	19	129	1	190
		13.7%	7.9%	10.0%	67.9%	0.5%	100.0%
松阪商業	商業	43	14	34	62	3	156
		27.6%	9.0%	21.8%	39.7%	1.9%	100.0%
飯南	総合	4	3	12	48	2	69
		5.8%	4.3%	17.4%	69.6%	2.9%	100.0%
相可	普通	32	12	28	4	1	77
		41.6%	15.6%	36.4%	5.2%	1.3%	100.0%
	農業 家庭	9	6	9	91	1	116
		7.8%	5.2%	7.8%	78.4%	0.9%	100.0%
昂学園	総合	11	2	12	20	0	45
		24.4%	4.4%	26.7%	44.4%	0.0%	100.0%

普通科計 (理数科含む)	282	14	35	5	15	351
	80.3%	4.0%	10.0%	1.4%	4.3%	100.0%
専門学科計	78	35	62	282	5	462
	16.9%	7.6%	13.4%	61.0%	1.1%	100.0%
総合学科計	15	5	24	68	2	114
	13.2%	4.4%	21.1%	59.6%	1.8%	100.0%
合計	375	54	121	355	22	927
	40.5%	5.8%	13.1%	38.3%	2.4%	100.0%

(1) 通学における主な路線図

(R7第1回協議会資料)



(2) 通学方法別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

学校名		松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計
通学方法	徒歩のみ	22	22	13	12	7	173	249
		2.5%	3.8%	2.8%	5.7%	1.2%	86.1%	8.5%
自転車のみ	384	291	207	24	200	6	1,112	
	43.6%	50.1%	43.9%	11.4%	34.3%	3.0%	38.0%	
JRのみ	1	47	8	0	69	0	125	
	0.1%	8.1%	1.7%	0%	11.8%	0%	4.3%	
私鉄のみ	192	96	16	0	0	0	304	
	21.8%	16.5%	3.4%	0%	0.0%	0%	10.4%	
バスのみ	40	17	0	111	83	7	258	
	4.5%	2.9%	0.0%	52.6%	14.2%	3.5%	8.8%	
船のみ	0	0	0	0	0	0	0	
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
JRと	私鉄	4	0	0	0	0	0	4
		0.5%	0%	0%	0%	0.0%	0%	0.1%
	バス	0	6	1	5	17	15	44
		0.0%	1.0%	0.2%	2.4%	2.9%	7.5%	1.5%
自転車	86	41	58	0	59	0	244	
	9.8%	7.1%	12.3%	0.0%	10.1%	0%	8.3%	
私鉄と	バス	14	2	1	6	55	0	78
		1.6%	0.3%	0.2%	2.8%	9.4%	0%	2.7%
	船	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
自転車	116	54	136	0	17	0	323	
	13.2%	9.3%	28.8%	0%	2.9%	0%	11.0%	
バスと	船	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	自転車	5	1	3	51	21	0	81
0.6%		0.2%	0.6%	24.2%	3.6%	0%	2.8%	
その他 (車送迎、3つ以上の交通機関等)	16	4	29	2	55	0	106	
	1.8%	0.7%	6.1%	0.9%	9.4%	0%	3.6%	
合計		880	581	472	211	583	201	2,928

(3) 通学費用別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

費用 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計	積み上げ
不要	410	307	232	40	248	179	1,416	1,416
	46.6%	52.8%	49.2%	19.0%	42.5%	89.1%	48.4%	48.4%
3,000円以内	47	30	11	0	7	0	95	1,511
	5.3%	5.2%	2.3%	0.0%	1.2%	0%	3.2%	51.6%
5,000円以内	231	129	108	0	53	7	528	2,039
	26.3%	22.2%	22.9%	0.0%	9.1%	3.5%	18.0%	69.6%
7,000円以内	70	65	52	5	50	0	242	2,281
	8.0%	11.2%	11.0%	2.4%	8.6%	0%	8.3%	77.9%
9,000円以内	33	19	20	2	53	4	131	2,412
	3.8%	3.3%	4.2%	0.9%	9.1%	2.0%	4.5%	82.4%
11,000円以内	24	12	18	7	79	8	148	2,560
	2.7%	2.1%	3.8%	3.3%	13.6%	4.0%	5.1%	87.4%
13,000円以内	20	8	4	28	25	3	88	2,648
	2.3%	1.4%	0.8%	13.3%	4.3%	1.5%	3.0%	90.4%
15,000円以内	26	5	17	75	51	0	174	2,822
	3.0%	0.9%	3.6%	35.5%	8.7%	0%	5.9%	96.4%
15,001円以上	19	6	10	54	17	0	106	2,928
	2.2%	1.0%	2.1%	25.6%	2.9%	0%	3.6%	100.0%
合計	880	581	472	211	583	201	2,928	2,928

※通学費用は1か月あたりの費用

(4) 通学時間別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

時間 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計	積み上げ
15分以内	174	121	55	22	75	168	615	615
	19.8%	20.8%	11.7%	10.4%	12.9%	83.6%	21.0%	21.0%
30分以内	266	177	147	25	116	13	744	1,359
	30.2%	30.5%	31.1%	11.8%	19.9%	6.5%	25.4%	46.4%
45分以内	208	131	112	59	152	1	663	2,022
	23.6%	22.5%	23.7%	28.0%	26.1%	0.5%	22.6%	69.1%
60分以内	163	91	98	51	122	6	531	2,553
	18.5%	15.7%	20.8%	24.2%	20.9%	3.0%	18.1%	87.2%
90分以内	56	48	45	50	91	10	300	2,853
	6.4%	8.3%	9.5%	23.7%	15.6%	5.0%	10.2%	97.4%
120分以内	11	11	14	4	22	3	65	2,918
	1.3%	1.9%	3.0%	1.9%	3.8%	1.5%	2.2%	99.7%
121分以上	2	2	1	0	5	0	10	2,928
	0.2%	0.3%	0.2%	0.0%	0.9%	0%	0.3%	100.0%
合計	880	581	472	211	583	201	2,928	2,928

※通学時間は片道の所要時間

(5) 自宅外通学生徒数

R7. 5. 1 学校基本調査より

種別 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計
下宿	6	7	9	0	10	0	32
寄宿舎	0	0	0	0	0	166	166
合計	6	7	9	0	10	166	198

学校規模と教育環境について

1 教員数

(1) 教職員定数

各学校に配置される教職員定数の標準は、法律により、入学定員（≡学級数）に応じて定められています。

全日制普通科の場合

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
教員数 (人)	8	15	23	29	35	43	48	52
差		7	8	6	6	8	5	4

※ 校長、教頭、養護教諭、実習助手、事務職員を除く

※ 上記以外に学科による加算や加配教員、非常勤講師等の配置があります

※ あくまで標準であり、すべての学校がこの人数に一致するわけではありません

(2) 学級数別の各教科担当教員の配置シミュレーション（全日制普通科）

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
計	8	15	23	29	35	43	48	52
国語	1	2	4	5	5	7	7	8
数学	2	3	4	5	6	7	8	9
英語	2	3	4	5	6	7	8	9
社会	1	2	3	4	5	6	6	7
理科	1	2	3	4	5	6	7	8
保体	1	2	3	3	4	5	6	6
芸術	0	1	1	1	2	3	3	3
家庭	0	0	1	1	1	1	1	1
情報	0	0	0	1	1	1	1	1

※ 1～7 学級の教科別教員数については、県内の 8 学級の高校の教科別教員数を参考に算出

※ 国語・数学・英語は学年あたりの配置人数が 1、2、3 人で色分け

※ 社会は地歴科と公民科から構成しており、地歴科では日本史、世界史、地理を専門とする教員を 5 人、公民科では 1 人を配置できる 6 人と、地歴 3 人、公民 1 人を配置できる 4 人で色分け

※ 理科は物理、化学、生物を専門とする教員が 2 人ずつ配置できる 6 人と、1 人ずつの 3 人で色分け

※ 保健体育は学年あたりの人数が 2 人、1 人で色分け

※ 芸術は音楽、美術、書道の教員が 1 人ずつ配置できる 3 人で色分け

※ この表はシミュレーションであり、実際は学校ごとに教育課程などが異なるため、教員数の合計、教科別の人数ともこのとおりとは限りません。

2 部活動

R4学校規模別部活動設置状況（男子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	硬式野球	53	98.1%	1,393	2	7	2	8	12	7	8	7
2	バスケットボール	47	87.0%	918	1	6	2	8	10	5	8	7
3	陸上競技	46	85.2%	824	2	4	2	7	10	6	8	7
4	卓球	42	77.8%	682	1	4	2	5	10	5	8	7
5	バドミントン	41	75.9%	1,130	0	6	0	6	11	4	7	7
6	サッカー	39	72.2%	1,515	0	2	2	5	10	5	8	7
7	テニス	34	63.0%	513	0	2	2	4	8	4	8	6
8	バレーボール	33	61.1%	627	1	2	0	5	7	4	7	7
9	ソフトテニス	31	57.4%	518	1	4	0	6	5	4	5	6
10	剣道	27	50.0%	177	0	0	1	4	5	5	5	7
11	ハンドボール	20	37.0%	472	0	0	0	1	4	4	5	6
12	柔道	20	37.0%	146	1	1	0	2	8	1	3	4
13	弓道	19	35.2%	348	0	0	1	4	5	3	5	1
14	山岳 (ワグ・フォグ)	12	22.2%	148	0	0	0	2	1	2	3	4
15	ラグビー	10	18.5%	207	0	0	0	1	3	1	2	3
16	水泳	10	18.5%	87	0	0	0	3	1	0	2	4
17	ダンス	9	16.7%	39	0	0	0	0	4	1	2	2
18	レスリング	7	13.0%	53	0	1	0	1	4	0	1	0
19	軟式野球	6	11.1%	104	0	0	0	0	1	1	2	2
20												
設置部活動の種類（～No.19）					7	11	8	18	19	17	19	18
設置部活動の全種類					7	15	9	22	28	23	26	22

R4学校規模別部活動設置状況（女子）マネージャー含む

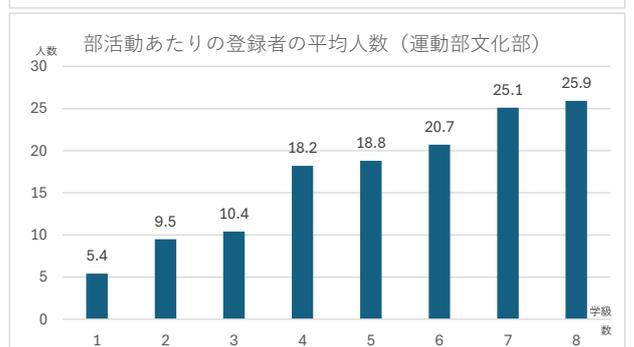
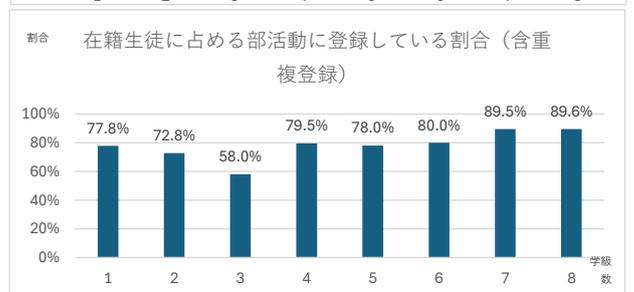
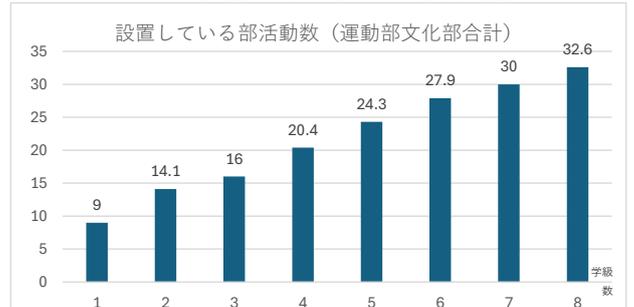
第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	陸上競技	41	75.9%	486	1	3	1	6	9	6	8	7
2	バドミントン	39	72.2%	913	0	5	0	7	10	4	6	7
3	バスケットボール	39	72.2%	575	2	2	0	5	10	6	7	7
4	卓球	37	68.5%	334	0	1	2	5	8	6	8	7
5	バレーボール	34	63.0%	533	1	1	0	5	7	6	7	7
6	テニス	29	53.7%	316	0	1	1	3	5	6	7	6
7	ソフトテニス	28	51.9%	279	1	3	0	5	5	5	4	5
8	剣道	25	46.3%	135	0	0	1	2	4	5	6	7
9	弓道	17	31.5%	334	0	0	1	3	5	2	5	1
10	ハンドボール	15	27.8%	255	0	0	0	0	3	3	4	5
11	ダンス	12	22.2%	403	0	0	0	0	5	1	3	3
12	ソフトボール	12	22.2%	188	0	0	0	2	3	3	2	2
13	柔道	12	22.2%	38	0	0	0	1	4	2	1	4
14	水泳	10	18.5%	54	0	0	0	3	0	1	2	4
15	硬式野球	9	16.7%	24	0	1	0	1	3	3	0	1
16	サッカー	7	13.0%	93	0	1	0	0	2	0	1	3
17	体操	5	9.3%	66	0	0	0	1	1	0	1	2
18	空手道	5	9.3%	57	0	0	0	0	0	1	2	2
19	山岳 (ワグ・フォグ)	5	9.3%	31	0	0	0	1	1	0	0	3
20												
設置部活動の種類（～No.19）					4	9	5	15	17	16	17	19
設置部活動の全種類					4	11	6	17	25	21	25	21

R4学校規模別部活動設置状況（文化部）

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	美術	47	87.0%	634	0	5	2	8	10	7	8	7
2	吹奏楽	44	81.5%	1,347	1	2	1	8	11	6	8	7
3	茶道	38	70.4%	536	1	4	2	5	8	5	7	6
4	書道	36	66.7%	351	0	2	2	5	9	5	6	7
5	放送	31	57.4%	308	0	1	0	4	9	5	7	5
6	写真	24	44.4%	586	0	2	0	4	6	6	4	2
7	家庭	19	35.2%	310	2	3	2	3	3	2	2	2
8	演劇	19	35.2%	214	0	0	0	2	5	3	4	5
9	ボランティア	13	24.1%	205	0	3	1	1	3	3	1	1
10	華道	13	24.1%	136	0	1	1	2	4	3	2	0
11	コンピュータ	11	20.4%	147	1	1	0	1	3	2	2	1
12	文芸	11	20.4%	106	0	1	0	0	0	2	3	5
13	アニメ・漫画	10	18.5%	197	0	1	0	0	3	2	3	1
14	人権サークル	10	18.5%	44	0	0	1	2	3	2	2	0
15	調理	9	16.7%	236	0	0	0	1	2	1	2	3
16	英語	9	16.7%	101	0	2	0	1	2	0	1	3
17	合唱	9	16.7%	64	0	0	0	1	2	1	4	1
18	新聞	8	14.8%	67	0	0	0	0	3	2	2	1
19	邦楽	7	13.0%	91	0	1	0	0	1	0	0	5
20	自然科学	7	13.0%	47	0	0	0	1	1	0	2	3
20												
設置部活動の種類（～No.20）					4	14	8	16	19	17	19	18
設置部活動の全種類					4	19	9	30	37	33	32	31

○1学年あたりの学級数別の部活動の状況

（令和4年度三重県学校体育・部活動実態調査より）



令和22年度までの松阪地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について

令和8年度(現中3) 地域の中学校卒業予定者数 1,810人	令和10年度(現中1) 地域の中学校卒業予定者数 1,752人 (R8年度比▲58)	令和11年度(現小6) 地域の中学校卒業予定者数 1,577人 (R8年度比▲233)	令和15年度(現小2) 地域の中学校卒業予定者数 1,487人 (R8年度比▲323)	令和22年度 地域の中学校卒業予定者数 1,010人 (R8年度比▲800)
--------------------------------------	--	---	---	--

